ADOBE® COLDFUSION® 10
インストール

法律上の注意

法律上の注意について詳しくは、http://help.adobe.com/ja_JP/legalnotices/index.html を参照してください。

コンテンツ

第 1 章：ColdFusion をインストールする準備

ColdFusion のインストールについて 1
ColdFusion 10 インストール 1

第 2 章：サーバー設定のインストール

サーバー設定のインストールに必要な情報の収集 4
サーバー設定による ColdFusion のインストール 5
ColdFusion インストールディレクトリの構造 7
ビルトイン Web サーバーの使用 9
ビルトイン Web サーバー（Tomcat）の設定 9
ColdFusion の起動、停止および再起動 10
JVM 設定の編集 10
新規 ColdFusion インスタンスの作成と編集 11
リモートインスタンスの登録 11
リモートインスタンスへの HTTPS 経由起動および停止機能の追加 12
Server Manager での HTTPS 経由リモート起動および停止機能の設定 13
Server Manager での HTTP 経由リモート起動および停止機能の設定 14
クラスタの管理 15
クラスタへのリモートインスタンスの追加 15
その他の Web サーバーの設定 16
Secured Socket Layer（SSL）の設定 17
仮想ディレクトリと doc ルートの変更 18
cfstat のコネクタポートの変更 18
検索エンジンセーフ URL の有効化 19
セキュアプロファイルの有効化 19
ログの回転設定の変更 19
永続セッションの有効化 19
旧バージョンからの更新 20
ColdFusion のアンインストール 20

第 3 章：J2EE 設定のインストール

J2EE 設定のインストールに必要な情報の収集 21
ColdFusion と J2EE アプリケーションサーバー 22
J2EE 設定を使用してインストールする準備 24
EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール 24
以前のバージョンの J2EE 設定からの更新 28
ColdFusion J2EE のデプロイと設定 28
ColdFusion のアンデプロイ 43

第 4 章：統合テクノロジーのインストール

Adobe およびサードパーティの統合テクノロジー 45
Dreamweaver 拡張機能のインストール 45
Report Builder のインストール 45
Solr 検索サーバーのインストール 45
Flash Remoting の有効化 46
Flash Remoting Update のインストール 47
ColdFusion .NET Integration Services のインストール 47
OpenOffice の設定 49

第 5 章：システムの設定

設定タスクの概要 51
Windows での ColdFusion サービスの管理 51
UNIX での ColdFusion プロセスの管理 52
Mac OS X での ColdFusion プロセスの管理 53
Web サーバーの設定 54
CORBA サポートの有効化 59
Remote Development Services の無効化 61
JSP 機能の無効化 (サーバー設定のみ) 61
Windows での ColdFusion ユーザーアカウントの変更 62

第 6 章：トラブルシューティング

一般的なインストール問題 63
データソースに関する問題 65
移行に関する問題 66
J2EE 設定に関する問題 67
インストール後に発生する問題 67
アンインストールに関する問題 68

第 1 章：ColdFusion をインストールする準備

重要：DVD で提供されているこのインストールマニュアルのコピーは最新のものでない可能性があります。最新のマニュアルにアクセスするには、ColdFusion ヘルプを参照してください。

Adobe ColdFusion 10 をインストールする前に、ColdFusion 製品の各エディションや必要なシステム条件などの注意事項を確認してください。

ColdFusion のインストールについて

ColdFusion には、強力で柔軟なインストールとアップグレードの手順が用意されています。ColdFusion インストール手順には次の段階があります。

1 インストール、設定、アップグレードのオプションを決定して、インストールを計画します。

2 ColdFusion インストーラを実行します。

3 (J2EE 設定のみ) J2EE アプリケーションサーバーに ColdFusion をデプロイして設定を行います。

ColdFusion インストールプロセスには、次の種類があります。

新規インストール ColdFusion がインストールされていないコンピュータに ColdFusion をインストールします。

アップグレードインストール ここでは、ColdFusion 8 または ColdFusion 9 からのアップグレード方法について説明します。アップグレードを選択した場合、インストーラは既存の設定を保持して、新しいディレクトリにインストールを行い、既存のインストールと競合しないポートを自動的に割り当てます。

次のいずれかの設定で ColdFusion 10 をインストールすることができます。

サーバー設定 ColdFusion 10 を組み込み JEE サーバーとともにインストールします。以前は、この設定のことをスタンドアローン設定と呼んでいました。エンタープライズ版またはデベロッパー版のライセンスの場合は、新しい ColdFusion インスタンスを作成して管理できます。サーバー設定のインストールの詳細については、4 ページの「サーバー設定のインストール」を参照してください。

注意：ColdFusion 10 ではマルチサーバーモードのインストールが別個に用意されているわけではありません。

J2EE 設定 (エンタープライズ版のみ) サードパーティーの J 2EE サーバー（IBM WebSphere や Oracle WebLogic など）を使用して、J 2EE（Java 2 Enterprise Edition）アプリケーションサーバー上で実行される Java アプリケーションとして ColdFusion 10 をデプロイできます。J2EE 設定を使用する場合、1 台のコンピュータに ColdFusion 10 を何回でもデプロイすることができます。J2EE 設定のインストールの詳細については、21 ページの「J2EE 設定のインストール」を参照してください。

ColdFusion 10 インストール

ColdFusion 10 製品の各エディション

ColdFusion 10 製品の各エディションは、Adobe Web サイトから入手できます。製品の各エディションの詳細については、www.adobe.com/go/learn_cfu_cfeditions_jp を参照してください。

必要なシステム条件

ColdFusion 10 で必要なシステム条件は、Adobe Web サイトでご確認いただけます。必要なシステム条件とサポートされている J2EE アプリケーションサーバーについては、www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp を参照してください。

インストールの注意事項

ColdFusion 10 をインストールする前に、インストールまたはアップグレードに関連するプラットフォームごとの注意事項を確認してください。

注意：ColdFusion での CORBA 接続に VisiBroker を使用するには、59 ページの「CORBA サポートの有効化」を参照してください。

- ColdFusion 10、ColdFusion 9 および ColdFusion 8 は、同じシステム上で共存可能です。
- ColdFusion クラスタ設定では、新規メンバーの追加やメンバーポートの変更など（ColdFusion Administrator で）クラスタ設定を変更すると、Web サーバーが再起動します。これによって、ページのタイムアウトが発生することがあります。

  この問題を解決するには、ページを更新します。
- ColdFusion アンインストーラーで Apache のコネクタを削除できない場合（例えば、Mac OS X の場合）、次の手順に従って、手動でコネクタを削除してください。

  1 {apache_install_location}/conf/ ディレクトリにある mod_jk.conf を削除します。

  2 Apache コネクタファイル（ mod_jk.so）が含まれている {cfroot}/config/wsconfig/**1** フォルダーを削除します。

  3 {apache_install_location}/conf/httpd.conf ファイルから次の行を削除します。

  Include "{apache_install_location}\conf\mod_jk.conf"

  4 ファイル {apache_install_location}\conf\mod_jk.conf を削除します。
- ColdFusion Administrator で複数のインスタンスを起動する場合は、最初に cfusion インスタンスを起動し、その後、他のインスタンスを起動します。
- ColdFusion アンインストーラーを実行すると、ログフォルダー（ColdFusion_Home/cfusion/）が削除されます。
- ColdFusion をインストールするときは、リモートサーバーを起動および停止するための管理者コンポーネントをインストールできます。

  リモートインスタンス管理者コンポーネントの資格情報を使用して、Server Manager、ColdFusion Administrator のインスタンスマネージャまたは ColdFusion Builder などのアプリケーションから、リモートにあるサーバーを起動したり停止したりできます。
- ColdFusion EAR または WAR の JRun での J2EE デプロイはサポートされていません。J2EE サーバーへのデプロイでは、EWS.jar が systemclasspath に含まれている必要があります。

すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項

次は、すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項です。

Windows でのインストールの注意事項

Windows システムのみに適用するインストールの注意事項を次に示します。

- ColdFusion を実行するサーバーを、PDC (Primary Domain Controller) または BDC (Backup Domain Controller) として設定しないでください。Adobe は、第 1 レベルを PDC または BDC とする Microsoft ネットワークモデルに従っています。これらのシステムは、ネットワークとドメインの管理を行うものであり、アプリケーションサーバーを実行す

るための設計になっていません。ColdFusion は第 2 レベルの Microsoft Windows スタンドアローンシステムに配置する必要があります。スタンドアローンサーバーはネットワークまたはドメインに加えることができます。

- Microsoft Windows XP では、着信 TCP/IP 接続が一度に 10 件しか処理されません。このため、このオペレーティングシステムを本番環境で使用することはお勧めしません。代わりに Microsoft Windows 2003 Server および Windows 2008 Server を使用してください。

UNIX でのインストールの注意事項

UNIX システムのみに適用するインストールの注意事項を次に示します。

- UNIX で ColdFusion インストーラを使用してインストールまたはアップグレード作業を実行すると、トラブルシューティング用に <ColdFusion のインストールディレクトリ >/Adobe_ColdFusion_10_InstallLog.log というログファイルが作成されます。インストール作業に関するサポートを Adobe 技術サポートから受けるには、このファイルを Adobe 技術サポートに送付します。
- J2EE 設定を Linux および Solaris 以外のプラットフォームにデプロイする場合は、ColdFusion_10_WWEJ_java.jar を使用してください。この Java 専用インストーラーには、プラットフォーム固有のバイナリファイルを必要とする機能（C++ CFX サポートなど）が含まれていません。

第 2 章：サーバー設定のインストール

ColdFusion サーバー設定には Tomcat のコピーが含まれているので、以前のバージョンの ColdFusion に最も近い構成になります。

注意：<ColdFusion のインストールディレクトリ > とは、ColdFusion がインストールされているディレクトリのことを指します。デフォルトでは、このディレクトリは C:¥ColdFusion10 (Windows の場合) または /opt/coldfusion10 (UNIX の場合) になります。

サーバー設定のインストールに必要な情報の収集

ColdFusion 10 インストーラには、直感的に操作できるインターフェイスが用意されていますが、インストール時に回答を求められる次の情報はあらかじめ準備しておくことをお勧めします。次の表を使用すると、ColdFusion 10 のサーバー設定のインストールを計画するときに役立ちます。

質問	回答
プラットフォーム固有のインストーラの名前は何ですか ?	_____
ColdFusion のシリアル番号は何番ですか ?	_____
インストールするタイプはどれですか ?	___ サーバー設定 ___ J2EE 設定
どのサブコンポーネントをインストールしますか ?	___ ColdFusion 10 ODBC Services ___ ColdFusion 10 Solr Services ___ リモート起動 / 停止用 Admin コンポーネント ___ .NET Integration Services ___ ColdFusion 10 マニュアル
ColdFusion のインストールディレクトリはどこですか ?	_____
Web サーバーを設定しますか、あるいはビルトイン Web サーバーを使用しますか ?	___ ColdFusion 用に Web サーバーを設定する ___ ColdFusion のビルトイン Web サーバーを有効にする
設定する Web サーバーの種類はどれですか ?(ビルトイン Web サーバーを使用しない場合のみ)	___ IIS ___ Apache ___ SunJWS ___ その他
設定ディレクトリはどこですか ?（Apache および Sun Java Web Server）	_____
セキュアプロファイルを有効にするには	___ はい ___ いいえ ColdFusion Administrator にアクセスできる IP アドレスのリストを識別します。
OpenOffice の設定	___ はい ___ いいえ
サーバーバイナリの場所はどこですか ?(Apache)	_____

質問	回答
RDS を有効にしますか？	___ はい ___ いいえ メモ : RDS を使用すると、サーバーは、リモートで接続している開発者と対話的にやり取りすることができます。本番サーバーでは RDS を無効にしておくことをお勧めします。 RDS を無効にすると、ColdFusion Administrator でディレクトリをブラウズするためのアプレットも無効になります。
RDS パスワードは何ですか？	_____
サーバーのアップデートを自動的に確認しますか？	___ はい ___ いいえ

サーバー設定による ColdFusion のインストール

4 ページの「サーバー設定のインストールに必要な情報の収集」の質問に対する回答を用意したら、Windows または UNIX に ColdFusion サーバー設定をインストールします。

Windows への ColdFusion サーバー設定のインストールまたは MAC

注意：（Windows のみ）Windows インストーラーを実行するには、コンピューターが 256 色以上の表示をサポートしている必要があります。

ColdFusion を Windows または MAC にインストールする

1 オンラインバージョンのリリースノートを参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。詳細については、www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp を参照してください。

2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。

3 2 ページの「Windows でのインストールの注意事項」と 2 ページの「すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項」を確認します。

4 4 ページの「サーバー設定のインストールに必要な情報の収集」の質問に対する回答を用意します。

5 コンピュータで現在実行中のアプリケーションをすべて閉じます。

6 外部 Web サーバーを設定する予定の場合は、Web サーバーが起動されていることを確認します。

7 DVD を挿入するか、Adobe Web サイトからセットアップファイルをダウンロードします。

8 DVD を挿入してもインストールウィザードが自動的に起動しない場合は、DVD 上の適切なインストーラーファイルを探してダブルクリックします。ネットワークまたはダウンロードしたファイルからインストールする場合は、ColdFusion インストーラーを探します。**（Windows のみ）：** coldfusion_10_WWEJ_win32.exe/coldfusion_10_WWEJ_win64.exe をダブルクリックします。**（MAC のみ）：** coldfusion_10_WWEJ_osx10.dmg ファイルを抽出してインストーラーをダブルクリックします。

9 インストールウィザードの指示に従ってインストール作業を完了します。

10 [OK] をクリックして ColdFusion Administrator を開き、サーバーを設定します。

11 Adobe またはサードパーティの統合テクノロジーを追加でインストールするには、45 ページの「統合テクノロジーのインストール」を参照してください。

12 51 ページの「システムの設定」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

13 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [情報源] ページで [マニュアル] リンクをクリックします。

UNIX への ColdFusion サーバー設定のインストール

デフォルトでは、ColdFusion は /opt/coldfusion10 ディレクトリにインストールされます。別のディレクトリに ColdFusion 10 をインストールすることもできます。

注意：デフォルトでは、UNIX インストーラは nobody というユーザーアカウントを使用して ColdFusion を実行します。

UNIX に ColdFusion サーバー設定をインストールするには

1 オンラインバージョンのリリースノートを参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。詳細については、www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp を参照してください。

2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。

3 3 ページの「UNIX でのインストールの注意事項」と 2 ページの「すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項」を確認します。

4 4 ページの「サーバー設定のインストールに必要な情報の収集」の質問に対する回答を用意します。

5 外部 Web サーバーを設定する予定の場合は、Web サーバーが起動されていることを確認します。

6 root としてログインします。

7 プラットフォームとロケールに適したインストールファイルを DVD または Adobe Web サイトからコピーし、ローカルディスクのディレクトリに保存します。

サポートされているサーバー設定プラットフォーム用のインストールファイルは次のとおりです。

プラットフォーム	ファイル
Linux	• ColdFusion_10_WWEJ_linux32.bin（32 ビットシステム用） • ColdFusion_10_WWEJ_linux64.bin（64 ビットシステム用）
Solaris	ColdFusion_10_WWEJ_solaris64.bin

8 cd コマンドを使用して、インストールファイルが保存されているディレクトリに移動します。

9 インストールファイルを実行するためのアクセス許可が与えられていることを確認します。ファイルのアクセス許可を変更するには、次のコマンドを使用します。

```
chmod 777 ColdFusion_10_WWEJ_solaris64.bin
```

10 次のコマンドを使用してインストール作業を開始します。

```
./<filename>
```

注意：Linux インストーラーを GUI モードで実行するには、/<filename> -i gui と入力します。

11 インストールプログラムの指示に従いインストール作業を完了させます。

注意：セキュリティ上の理由から、実行時のユーザーには root を使用しないでください。

12 次のコマンドを入力して ColdFusion を起動します。

```
/cf_root/cfusion/bin/coldfusion start
```

インストーラーを実行したときに外部 Web サーバーを使用するように指定した場合は、ColdFusion を初めて起動すると、**cf_root**/cfusion/bin/cf-connectors.sh スクリプトが自動的に実行されます。このシェルスクリプトは、インストール時に指定された設定を使用して Web サーバー設定ツールを実行します。このスクリプトの実行中に問題が発生した場合は、設定ディレクトリと bin ディレクトリの指定を確認し、必要に応じて修正してから、スクリプトを再実行してください。また、**cf_root**/cfusion/bin/connectors にあるスクリプトを使用して Web サーバーを設定することもできます。

ColdFusion を停止するには、次のコマンドを使用します。

```
/cf_root/cfusion/bin/coldfusion stop
```

プロセスを管理する方法の詳細については、52 ページの「UNIX での ColdFusion プロセスの管理」を参照してください。

13 ColdFusion Administrator を開いて、設定ウィザードを実行します。

14 51 ページの「システムの設定」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

15 Adobe またはサードパーティの統合テクノロジーを追加でインストールするには、45 ページの「統合テクノロジーのインストール」を参照してください。

16 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [情報源] ページで [マニュアル] リンクをクリックします。

ColdFusion インストールディレクトリの構造

デフォルトのインストールディレクトリは、ColdFusion10 です。次の表はディレクトリ構造を示したものです。

ディレクトリ	説明
cfusion	次のディレクトリが含まれています。 • bin：ColdFusion の起動、停止、情報表示を行うためのプログラムと、Crystal Reports（Windows のみ）を実行するためのプログラムまた、サーバー管理者のためのパスワードリセットスクリプトやリモートサーバーを起動および停止するための管理者コンポーネントも含まれます。 • cache：ColdFusion のテンポラリファイル用のレポジトリ • cfx：C++ および Java で作成された CFX ファイルのサンプルと、それらに必要なファイル。CFX ファイルはクラスパスで定義された場所に保存できますが、このディレクトリに保存することもできます。 • charting：ColdFusion のグラフ作成およびチャート作成エンジンで使用されるファイル • CustomTags：カスタムタグ用のレポジトリ • db：すべてのプラットフォームに共通する Apache Derby データベースのサンプル • gateway：ColdFusion イベントゲートウェイ用のファイル • jetty：Solr 設定ファイルと、リモートインスタンスの起動および停止に関連するファイル • jintegra：（Windows のみ該当）JIntegra プログラム、ライブラリ、およびその他のサポートファイル（例えば、Java と COM コードを統合したり、GUI コンテナに含まれる ActiveX コントロール（OCX）へのアクセスを管理したり、JVM やタイプライブラリを登録するためのファイルなど）。（Windows のみ該当） • jnbridge：.NET Integration Services に関連するファイル • lib：JAR ファイル、XML ファイル、プロパティファイル、および ColdFusion の基盤となるその他のファイル（クエリ、グラフ作成、メール、セキュリティ、Solr、システムプローブなどの機能）。 • logs：ColdFusion ログファイル用のレポジトリ JRE 固有のログファイルは runtime/logs ディレクトリに保存されます。コンソール出力のログは、cfserver.log ではなく、coldfusion-out.log に記録されます。 • Mail：スプールされたメールや配送できないメール用のレポジトリ • META-INF：ColdFusion Administrator の XML メタデータ • MonitoringServer：マルチサーバーモニターに使用する crossdomain.xml が含まれています。 • registry：（UNIX のみ）レジストリ設定を保存するためのフラットファイル • runtime：ColdFusion 実行時プログラムとそのサポートファイル。Tomcat ライブラリも含まれています。runtime 内の conf ディレクトリには、Tomcat のすべての設定ファイルが含まれています。 • stubs：Web サービス。 • wwwroot：ビルトイン Web サーバーのデフォルトの Web ルートディレクトリ。他の Web サーバーを使用している場合、このディレクトリには CFIDE ディレクトリと WEB-INF ディレクトリが含まれます。このディレクトリは絶対に削除しないでください。
config	instances.xml ファイルとコネクタの設定ファイルが含まれています。クラスタ設定ファイル cluster.xml も含まれています。
jre	Java ランタイムファイル
uninstall	ColdFusion のアンインストール用のファイル

ディレクトリ構造の変更

次の表は、ColdFusion 9 と ColdFusion 10 のディレクトリを比較したものです。

ColdFusion 9	ColdFusion 10
cfroot	cfusion
ColdFusion9¥runtime¥jre	ColdFusion10¥jre
ColdFusion9¥uninstall	ColdFusion10¥uninstall
ColdFusion9¥runtime¥lib¥wsconfig	ColdFusion10¥config¥wsconfig

注意：ColdFusion_install¥cfusion¥bin ディレクトリには、Jvm.config ファイルが含まれています。

ビルトイン Web サーバーの使用

ColdFusion に含まれているビルトイン Tomcat アプリケーションサーバーを使用して、ColdFusion アプリケーションを開発できます。

ColdFusion のインストール時には Web サーバーを選択します。ビルトイン Web サーバーを選択すると、Web ルートディレクトリが **cfroot**¥wwwroot ディレクトリに設定されます。デフォルトでは、Web サーバーはポート 8500 で実行されます。したがって、アプリケーション内でページを表示するには、http://localhost:8500/YourApp1/index.cfm のように、URL のホスト名または IP アドレスの後に 8500 を追加します。この方法でページが表示されない場合は、ビルトイン Web サーバーの Web ルートディレクトリに C:¥ColdFusion10¥cfusion¥wwwroot¥YourApp1¥index.cfm などのドキュメントが存在することを確認してください。

注意：ポート 8500 が使用中の場合、インストーラーは未使用のポートが見つかるまでポート番号を（8501 から）100 まで増加させます。検出された未使用のポートが ColdFusion によって使用され、そのポート番号はメッセージで通知されます。

インストール時に外部 Web サーバーを選択した場合、ビルトイン Web サーバーは無効になります。

ビルトイン Web サーバーのポートの変更

1 server.xml ファイルをバックアップします。

   このファイルは、***cfroot***¥cfusion¥runtime¥conf ディレクトリにあります。

2 オリジナルの server.xml ファイルをテキストエディターで開きます。

3 internal webserver start を検索します。ポート番号を更新します。

```
<Connector executor="tomcatThreadPool"
        port="8500" protocol="org.apache.coyote.http11.Http11NioProtocol"
        connectionTimeout="20000"
        redirectPort="8445"/>
```

4 ファイルを保存し、ColdFusion を再起動します。

ビルトイン Web サーバー（Tomcat）の設定

インストール時に、ColdFusion を外部 Web サーバー上に設定した場合、次の手順に従って ColdFusion をビルトイン Tomcat 上に設定します。

1 ***cfroot***¥cfusion¥runtime¥conf¥server.xml ファイルを開きます。

2 internal webserver start を検索し、次のコネクタ XML を非コメント化します。

```
<Connector executor="tomcatThreadPool"
        port="8500" protocol="org.apache.coyote.http11.Http11NioProtocol"
        connectionTimeout="20000"
        redirectPort="8445"/>
```

3 ファイルを保存し、ColdFusion を再起動します。

注意：Tomcat に切り替えた後に OS シンボリックリンクを有効にするには、/cfusion/runtime/conf/ にある context.xml ファイルを編集して、コンテキスト要素に allowLinking="true" 属性を追加します。

ColdFusion の起動、停止および再起動

Windows の場合

❖ プロンプトで、ディレクトリ cfroot¥cfusion¥bin に移動し、コマンド coldfusion.exe -start -console を実行します。

ColdFusion を停止するには、コマンド coldfusion.exe -stop -console を使用します。再起動するには、コマンド coldfusion.exe -restart -console を使用します。

または、Windows サービスを使用して ColdFusion サーバーを起動、停止、再起動することもできます。

注意：ColdFusion を再起動した場合、一時停止されていたタスクは正しく実行されません。

注意：以前のバージョンの ColdFusion と同様に、cfstart スクリプトを使用して ColdFusion サーバーを起動および停止できます。

注意：-console 引数はオプションです。指定しなかった場合、ログは cfroot¥cfusion¥logs ディレクトリに保存されます。

UNIX/Linux/Solaris/Mac OSX

❖ プロンプトで、ディレクトリ cfroot¥cfusion¥bin に移動し、コマンド を実行します。./coldfusion start

ColdFusion を停止するには、コマンド ./coldfusion stop を使用します。再起動するには、コマンド ./coldfusion restart を使用します。

注意：ColdFusion を再起動した場合、一時停止されていたタスクは正しく実行されません。

注意：ColdFusion サーバーのステータスを確認するには、status コマンドを使用します。

JVM 設定の編集

JVM 設定を編集するには、***cfroot***¥cfusion¥bin¥jvm.config ファイルを開き、次の詳細を更新します。

- java.home：Java ホーム。未設定の場合、ColdFusion はレジストリの cfroot¥jre フォルダー内または JAVA_HOME 環境変数のデフォルト JRE を確認します。
- java.args：-Xmx や ColdFusion クラスパスなどの設定
- java.library.path：ライブラリパスの設定
- java.class.path：追加のクラスパス設定のカンマ区切りのリスト
- application.home：デフォルトは cfroot¥cfusion です。

新規 ColdFusion インスタンスの作成と編集

ColdFusion をスタンドアローンモードでインストールした後、ColdFusion Administrator を使用して新規の ColdFusion インスタンスを作成します。

1 ColdFusion Administrator で、エンタープライズマネージャ／インスタンスマネージャに移動します。
2 [新規インスタンスの追加] をクリックします。
3 サーバー名とサーバーディレクトリを入力します。
4 （オプション）「Windows サービスの作成」にチェックを付けます。
5 「送信」をクリックします。

   インスタンスマネージャで、Web サイトを起動、停止、再起動、削除、アクセスするか、Administrator にアクセスします。

6 インスタンスマネージャを編集するには、編集アイコンをクリックします。
7 内部 Web サーバーポートおよび負荷分散係数を編集します。

   負荷分散係数は、そのインスタンスが受け持つ負荷を表します。負荷分散係数はインスタンスがクラスタの一部になっている場合にのみ指定できます。

   例えば、最初のインスタンスの負荷分散係数を 1 に、2 つ目のインスタンスの負荷分散係数を 2 に設定したとします。この場合、2 つ目のインスタンスに 2 倍の負荷がかかります。

8 「送信」をクリックします。

リモートインスタンスの登録

ColdFusion の新規リモートインスタンスを ColdFusion Administrator を使用して登録します。

1 ColdFusion Administrator で、エンタープライズマネージャ／インスタンスマネージャ／リモートインスタンスの登録をクリックします。
2 インスタンス名、リモートホスト、リモートポート、http ポート、JVM ルートなどの詳細を指定します。

   インスタンス名は、そのインスタンスを識別するための文字列です。リモートポートと HTTP ポートがインスタンスマネージャページに表示されます。これらのポートは、インスタンスの runtime¥conf フォルダーにある server.xml ファイルに指定されています。リモートポートは AJP ポートで、インスタンスポートはコネクタポートです。

   JVM ルートはリモートインスタンスの名前です。JVM ルートは、特定の Tomcat ワーカーに対する識別子として機能する属性です。JVM ルートは、インスタンスの runtime¥conf フォルダーにある server.xml ファイルに指定されています。JVM ルートについて詳しくは、http://tomcat.apache.org/tomcat-5.5-doc/cluster-howto.html を参照してください。

   注意：スティッキーセッションを有効にして、リモートインスタンスとローカルインスタンスをクラスタに追加した場合は、両方のインスタンスに同じ JVM ルートを設定することはできません。

3 HTTP 経由のリモート開始および停止機能を有効にするには、「Admin コンポーネントのポート」、「Admin コンポーネントのユーザー名」および「Admin コンポーネントのパスワード」に入力する必要があります。デフォルトの Admin コンポーネントのポートは、8985 です。

   注意：この機能を有効にするには、リモートホストに Admin コンポーネントをインストールします。

   a リモートホストで、ColdFusion_installtion¥cfusion¥jetty¥etc¥jetty.xml を開きます。
   b org.mortbay.jetty.bio.SocketConnector という文字列を検索します。
   c リモートホストの IP アドレスでホストを更新します。

d jetty サーバーを再起動します。

4 「送信」をクリックします。

リモートインスタンスへの HTTPS 経由起動および停止機能の追加

リモートインスタンスを HTTPS または HTTP を介して起動および停止できます。この機能を有効にするには、ColdFusion のインストール時に Admin コンポーネントをインストールします。ColdFusion のインストール時に、Solr、Admin コンポーネントまたはこれらの両方をインストールできます。

1 リモートホストで次の手順に従います。

a リモートホストで、キーストアファイルに秘密鍵を生成します。プロンプトで情報を入力します。

```
cfroot\jre\bin\keytool -genkeypair -alias certificatekey -keyalg RSA -validity 7 -keystore
keystore.jks
```

b 証明書をエクスポートします。自己署名証明書または認証機関から発行された証明書が可能です。

```
cfroot\jre\bin\keytool -export -alias certificatekey -keystore keystore.jks -rfc -file
selfsignedcert.cer
```

c 作成された jks ファイルを jetty¥etc ディレクトリにコピーします。

d jetty¥etc¥jetty.xml ファイルを開きます。

e 文字列 To add an HTTPS SSL Listener を検索し、次のエントリを追加します。

```
 <Call name="addConnector">
    <Arg>
    <New class="org.mortbay.jetty.security.SslSocketConnector">
        <Set name="Port">8443</Set>
        <Set name="maxIdleTime">30000</Set>
        <Set name="keystore"><SystemProperty name="jetty.home" default="." />/etc/jks-file.jks</Set>
        <Set name="password">changeit</Set>
        <Set name="keyPassword">changeit</Set>
        <Set name="truststore"><SystemProperty name="jetty.home" default="." />/etc/jks-
file.jks</Set>
        <Set name="trustPassword">changeit</Set>
    </New>
    </Arg>
</Call>
```

f エントリ内で、キーストア名、パスワード、キーパスワードおよび jks ファイルを更新します。

g 文字列 org.mortbay.jetty.bio.SocketConnector を検索します。

h リモートホストの IP アドレスでホストを更新します。

i jetty サーバーを再起動します。

注意：リモートサーバーを Windows Vista、Windows 7 または Windows Server 2008 で実行している場合は、admin 権限で jetty サーバーを起動します。

2 リモートインスタンスの追加作業を行ったローカルホストで、次の手順に従います。

a リモートホストで作成した .cer ファイルを任意の場所にコピーします。

b 証明書をインポートします。

```
cfroot\jre\bin\keytool.exe -importcert -keystore "cfroot\jre\lib\security\cacerts" -file
selfsignedcert.cer -storepass password
```

c ColdFusion Administrator を使用してリモートインスタンスを登録します。詳しくは、11 ページの「リモートインスタンスの登録」を参照してください。

d リモートインスタンスの登録ページで、Admin コンポーネントのポート、Admin コンポーネントのユーザー名および Admin コンポーネントのパスワードを入力します（ユーザー名とパスワード。リモートインスタンス管理者インストール時に指定した詳細）。デフォルトの https ポートは 8443 です。

e 「HTTPS」チェックボックスを選択します。

f 「送信」をクリックします。

Server Manager での HTTPS 経由リモート起動および停止機能の設定

Server Manager で、リモートインスタンスの起動および停止機能を設定できます。この機能を有効にするには、ColdFusion のインストール時にリモートインスタンス管理者をインストールします。

1 リモートホストで次の手順に従います。

a リモートホストで、キーストアファイルに秘密鍵を生成します。プロンプトで情報を入力します。

```
cfroot\jre\bin\keytool -genkeypair -alias certificatekey -keyalg RSA -validity 7 -keystore
keystore.jks
```

b 証明書をエクスポートします。自己署名証明書または認証機関から発行された証明書が可能です。

```
cfroot\jre\bin\keytool -export -alias certificatekey -keystore keystore.jks -rfc -file
selfsignedcert.cer
```

c リモートホストで作成された .jks ファイルを jetty¥etc ディレクトリにコピーします。

d jetty¥etc¥jetty.xml ファイルを開きます。

e To add a HTTPS SSL Listener という文字列を検索して、次のエントリを追加します。

```
 <Call name="addConnector">
    <Arg>
    <New class="org.mortbay.jetty.security.SslSocketConnector">
        <Set name="Port">8443</Set>
        <Set name="maxIdleTime">30000</Set>
        <Set name="keystore"><SystemProperty name="jetty.home" default="." />/etc/server.jks</Set>
        <Set name="password">changeit</Set>
        <Set name="keyPassword">changeit</Set>
        <Set name="truststore"><SystemProperty name="jetty.home" default="." />/etc/server.jks</Set>
        <Set name="trustPassword">changeit</Set>
    </New>
    </Arg>
</Call>
```

f エントリのキーストア名、パスワード、キーパスワードおよび jks ファイルを更新します。

g org.mortbay.jetty.bio.SocketConnector という文字列を検索します。

h リモートホストのポート番号でホストを更新します。

i jetty サーバーを再起動します。

注意：リモートサーバーを Windows Vista、Windows 7 または Windows Server 2008 で実行している場合は、admin 権限で jetty サーバーを起動します。

2 リモートインスタンスを追加するローカルホストで、次のようにします。

a リモートホストで作成した .cer ファイルを任意の場所にコピーします。

b 証明書をインポートします。

```
cfroot\jre\bin\keytool.exe -importcert -keystore "cfroot\jre\lib\security\cacerts" -file
selfsignedcert.cer -storepass password
```

3 ローカルホストの wwwroot¥CFIDE¥ServerManager¥ServerManager.air を開きます。

4 接続の詳細を指定します。

5 「開始 / 停止の詳細」をクリックします。

6 「HTTPS」を選択します。

7 次の情報を入力します。

- **アプリケーションサーバーユーザー名：**ColdFusion のインストール時に指定した、Admin コンポーネントのユーザー名。デフォルト値は admin です。
- **アプリケーションサーバーパスワード：**Admin コンポーネントのパスワード
- **ポート：**ColdFusion リモートインスタンスの HTTPS ポート
- **サーバー：**ColdFusion のリモートインスタンス名です。
- **ColdFusion のバージョン：**ColdFusion の場合は 10 です。
- **管理サーバーポート：**デフォルト https ポートは 8443 です。Jetty サーバーのポートです。
- **コンテキストルート：**値は AdminServlet です。

8 [適用] をクリックします。

Server Manager での HTTP 経由リモート起動および停止機能の設定

Server Manager で、リモートインスタンスの起動および停止機能を設定できます。この機能を有効にするには、ColdFusion のインストール時にリモートインスタンス管理者をインストールします。

1 リモートホストで、次のようにします。

a リモートホストで、ColdFusion_installtion¥cfusion¥jetty¥etc¥jetty.xml を開きます。

b org.mortbay.jetty.bio.SocketConnector という文字列を検索します。

c リモートホストの IP アドレスでホストを更新します。

d jetty サーバーを起動します。ColdFusion_installation¥cfusion¥jetty ディレクトリに移動して、jetty.exe を使用します。Windows サービスの jetty サービスを使用することもできます。

2 ローカルホストの wwwroot¥CFIDE¥ServerManager¥ServerManager.air を開きます。

3 接続の詳細を指定します。

4 「開始 / 停止の詳細」をクリックします。

5 「HTTP」を選択します。

6 次の情報を入力します。

- **アプリケーションサーバーユーザー名：**ColdFusion のインストール中に指定した admin コンポーネントのユーザー名です。デフォルト値は、admin です。
- **アプリケーションサーバーパスワード：**admin コンポーネントのパスワードです。
- **ポート：**ColdFusion リモートインスタンスの HTTP ポート

- **サーバー：**ColdFusion リモートインスタンス名
- **ColdFusion のバージョン：**ColdFusion Zeus の場合は 10 です。
- **管理サーバーポート：**デフォルト https ポートは 8985 です。Jetty サーバーのポートです。
- **コンテキストルート：**値は AdminServlet です。

7 [適用] をクリックします。

クラスタの管理

ColdFusion Administrator を使用して、クラスタを管理します。

1 ColdFusion Administrator で、エンタープライズマネージャ／クラスタマネージャをクリックします。

2 クラスタ名を入力し、「追加」をクリックします。

3 クラスタ名をクリックし、要件に従ってサーバーをクラスタに移動します。

4 （必要であれば）マルチキャストポートを編集します。

マルチキャストポートは、クラスタメンバーのグループ化に使用します。マルチキャストポートのデフォルト値は 45564 です。クラスタを作成すると、***cfroot***¥config¥cluster.xml ファイルにポートが追加されます。

マルチキャストポートについて詳しくは、http://tomcat.apache.org/tomcat-7.0-doc/config/cluster-membership.html を参照してください。

5 スティッキーセッションを使用するかどうかを指定します。

スティッキーセッションを指定した場合、クライアントのセッションが最初に確立されたインスタンスに、そのクライアントのすべての後続リクエストがマッピングされるようになります。

6 「送信」をクリックします。

注意：クラスタのインスタンスを変更した場合は、Web サーバーを再起動します。

クラスタへのリモートインスタンスの追加

クラスタにリモートインスタンスを追加するには、リモートインスタンスの server.xml にクラスタブロックを追加します。次に、リモートインスタンスを登録して、インスタンスをクラスタに追加します。Tomcat でのクラスタ設定について詳しくは、http://tomcat.apache.org/tomcat-7.0-doc/cluster-howto.html を参照してください。

1 リモートインスタンスをローカルマシンに登録します。

2 ローカルマシンでクラスタを作成します。

3 リモートインスタンスの cfroot¥***instance-name***¥runtime¥conf¥server.xml ファイルを開きます。

4 </host> エントリと </engine> エントリの間に次のブロックを追加します。

```
<Cluster className="org.apache.catalina.ha.tcp.SimpleTcpCluster" channelSendOptions="8">
    <Manager notifyListenersOnReplication="true" expireSessionsOnShutdown="false"
className="org.apache.catalina.ha.session.DeltaManager">
    </Manager>
    <Channel className="org.apache.catalina.tribes.group.GroupChannel">
        <Membership port="45565" dropTime="3000" address="228.0.0.4"
className="org.apache.catalina.tribes.membership.McastService" frequency="500">
        </Membership>
        <Receiver port="4003" autoBind="100" address="auto" selectorTimeout="5000" maxThreads="6"
className="org.apache.catalina.tribes.transport.nio.NioReceiver">
        </Receiver>
        <Sender className="org.apache.catalina.tribes.transport.ReplicationTransmitter">
            <Transport className="org.apache.catalina.tribes.transport.nio.PooledParallelSender">
            </Transport>
        </Sender>
        <Interceptor className="org.apache.catalina.tribes.group.interceptors.TcpFailureDetector">
        </Interceptor>
        <Interceptor
className="org.apache.catalina.tribes.group.interceptors.MessageDispatch15Interceptor">
        </Interceptor>
    </Channel>
    <Valve className="org.apache.catalina.ha.tcp.ReplicationValve" filter="">
    </Valve>
    <Valve className="org.apache.catalina.ha.session.JvmRouteBinderValve">
    </Valve>

    <ClusterListener className="org.apache.catalina.ha.session.JvmRouteSessionIDBinderListener">
    </ClusterListener>
    <ClusterListener className="org.apache.catalina.ha.session.ClusterSessionListener">
    </ClusterListener>

</Cluster>
```

5 エントリ内のメンバーシップポートをクラスタのマルチキャストポートで更新します。

6 ローカルホストの ColdFusion Administrator を使用して、ローカルインスタンスとリモートインスタンスをクラスタに追加します。

注意：スティッキーセッションを有効にする場合は、リモートインスタンスとローカルインスタンスにそれぞれ異なる JVM ルートを指定する必要があります。

7 すべてのインスタンスを再起動します。

注意：クラスタにリモートインスタンスを追加する場合は、<cf_home>¥runtime¥conf ディレクトリにある content.xml ファイル内の <Manager pathname="" /> をコメント化してください。

その他の Web サーバーの設定

その他の Web サーバーは、Web サーバー設定ツールを使用して設定します。

❖ ***cfroot***¥runtime¥bin¥wsconfig.exe を実行します。

次のように、コマンドラインインターフェイスを使用して Web サーバーを設定することもできます。

IIS の設定

```
wsconfig.exe -ws iis -site <site_no>
```

または

```
wsconfig.exe -ws iis -site <site_name>
```

クラスタの設定

```
wsconfig.exe -ws iis -site <site_no> -cluster <cluster-name>
```

Apache の設定

```
(Windows only) wsconfig.exe -ws apache -dir <apache_conf_directory>
(Linux or MAC only) ./wsconfig -ws apache -dir <apache_conf_directory>
```

または

```
(Windows only) wsconfig.exe -ws apache -dir <apache_conf_directory> -bin <apache_bin_directory>/httpd -
script <apache_bin_directory>/apachectl
(Linux or Mac only) ./wsconfig -ws apache -dir <apache_conf_directory> -bin <apache_bin_directory>/httpd -
script <apache_bin_directory>/apachectl
```

クラスタの設定

```
(Windows only) wsconfig.exe -ws apache -dir <apache_conf_directory> -cluster <cluster-name>
(Linux or MAC only) ./wsconfig -ws apache -dir <apache_conf_directory> -cluster <cluster-name>
```

Sun Java Web Server の設定

```
(Windows only) wsconfig.exe -ws SunJWS -dir <SunJWS_conf_directory>
(Linux or MAC only) ./wsconfig -ws SunJWS -dir <SunJWS_conf_directory>
```

クラスタの設定

```
(Windows only) wsconfig.exe -ws SunJWS -dir <SunJWS_conf_directory> -cluster <cluster-name>
(Linux or MAC only) ./wsconfig -ws SunJWS -dir <SunJWS_conf_directory> -cluster <cluster-name>
```

IIS の設定解除

```
wsconfig.exe -remove -ws iis -site <site_no>
```

または

```
wsconfig.exe -remove iis -site <site_name>
```

Apache の設定解除

```
./wsconfig -remove -ws apache -dir <apache_conf_directory>
```

または

```
./wsconfig -remove -ws apache -dir <apache_conf_directory> -bin <apache_bin directory>/httpd -script
<apache_bin_directory>/apachectl
```

Sun Java Web Server の設定解除

```
./wsconfig -remove -ws SunJWS -dir <SunJWS_conf_directory>
```

すべての Web サーバーの設定解除

```
./wsconfig -uninstall
```

Web サーバーのリストの表示

```
./wsconfig -list
```

Secured Socket Layer（SSL）の設定

SSL を使用すると、ブラウザーとサーバーとの間で安全な接続を使用して通信を行うことができます。データは送信側で暗号化されて伝送され、受信側で復号されます。Tomcat での SSL 設定について詳しくは、http://tomcat.apache.org/tomcat-7.0-doc/ssl-howto.html を参照してください。

keytool ユーティリティを使用して ColdFusion に SSL を設定するには、次の手順に従います。

1 証明書ファイルを作成します。

   a 次のコマンドを実行します。

   cfroot¥jre¥bin¥keytool -genkey -alias tomcat -keyalg RSA

   b 指示に従って詳細を入力します。

   注意：パスワードを指定しなかった場合、キーストアとキーのデフォルトのパスワード changeit が使用されます。デフォルトのパスワードを使用しない場合は、キーストアとキーに同じパスワードを指定してください。

   このコマンドを実行すると、次の場所に certificate.keystore が作成されます。

   - Windows：C:¥Documents and Settings¥***user's_directory***
   - Linux：usr/home

2 cfroot¥cfusion¥runtime¥conf¥server.xml ファイルを開き、文字列 Define a SSL HTTP/1.1 を検索します。

3 コネクタ詳細を非コメント化し、セクションを次のように更新します。

```
<Connector port="8443" protocol="HTTP/1.1"
    SSLEnabled="true" maxThreads="150" scheme="https"
    secure="true" keystoreFile="<certificate_location>\.keystore" keystorePass="<password>"
keyAlias="tomcat" clientAuth="false" sslProtocol="TLS" />
```

4 ColdFusion を再起動します。

5 次の URL を使用して ColdFusion にアクセスします：https://<ip-address>:8443/CFIDE/administrator

仮想ディレクトリと doc ルートの変更

次の手順に従って、仮想ディレクトリと doc ルートを変更します。

1 CFInstallation¥cfusion¥runtime¥conf¥server.xml を開きます。

2 ホストブロックの下で、文字列「To add virtual directory」を検索します。

3 次のエントリ context path を非コメント化します。

4 仮想ディレクトリを追加するには、次のように aliases 属性を追加します。

```
<Context path="/" docBase="<absolute_path_to_cfrootectory>\wwwroot"
WorkDir="<cf_home>\runtime\conf\Catalina\localhost\tmp"
aliases="/path1=<absolute_path_to_directory1>,/path2=<absolute_path_to_directory2>"></Context>
```

   注意：Alias のパスの先頭は「/」にする必要があります。

5 doc ルートを変更するには、前述のエントリ内の docBase 値を変更します。

   Context 属性について詳しくは、http://tomcat.apache.org/tomcat-6.0-doc/config/context.html を参照してください。

cfstat のコネクタポートの変更

cfstat 測定のログ記録にコネクタ出力を使用できます。cfconnector ポートは CFInstallation/cfusion/lib/neo-metric.xml ファイルで定義されています。コネクタを設定した場合は、ポートをコネクタポートで更新します。コネクタポート（AJP ポート）は、CFInstallation/cfusion/runtime/conf/server.xml で指定されています。

Administrator コンソールを使用してコネクタポートを更新するには：

1 ColdFusion Administrator にログインします。

2 デバッグとロギング／ Debug Output をクリックします。

3 コネクタポートを更新し、「変更の送信」をクリックします。

検索エンジンセーフ URL の有効化

検索エンジンセーフ URL（SES）を使用すると、検索エンジンで動的 Web ページにインデックスを付けることができます。SES URL は、デフォルトの URL パターンの代わりにスラッシュを使用したパラメーターを渡します。Tomcat 上の ColdFusion スタンドアローンインストールでは、SES がデフォルトで有効になります。

注意：SES を使用できるのは、Tomcat のスタンドアローンインストールのみです。ColdFusion が WAR ファイルとして Tomcat にデプロイされている場合、これは機能しません。

注意：カスタム SES URL を使用する場合は、Web サーバーの wsconfig フォルダーにある uriworkermap.properties ファイルに URL エントリを追加します。

セキュアプロファイルの有効化

***ColdFusion 10 の新機能 ***

ColdFusion では、特定の設定を有効または無効にして、ColdFusion サーバーのセキュリティを強化することができます。ColdFusion のインストール時に、セキュアプロファイル画面で入力を要求されたときにオプションを選択して、セキュアプロファイルを有効にすることができます。さらに、ColdFusion Administrator へのアクセスを許可する IP アドレスのカンマ区切りリストを指定することもできます。詳しくは、Enabling Secure Profile for ColdFusion Administrator を参照してください。

ログの回転設定の変更

バックアップファイルの最大数やバックアップファイルのサイズなど、ログの回転設定を変更できます。

1 <ColdFusion_Home>¥lib ディレクトリにある neo-logging.xml でログファイルの設定を指定します。

2 coldfusion-out.log および coldfusion-error.log のサイズはデフォルトで 20MB に設定されます。ログのサイズは、neo-logging.xml ファイルで maxFileSize の設定を変更することにより変更できます。

3 また、ColdFusion がログローテーションの間に作成する coldfusion-out.log および coldfusion-error.log のバックアップの最大数も、neo-logging.xml ファイルで変更できます。maxBackSize の設定を変更します。

4 その他のファイルの設定は、ColdFusion Administrator のデバッグとロギングの「ロギングの設定」セクションで変更できます。「ファイルの最大サイズ」および「アーカイブの最大数」の設定を適切に変更します。

永続セッションの有効化

Tomcat の再起動後もセッションが維持されるようにするには、次の手順に従います。

1 cfroot¥cfusion¥runtime¥conf¥context.xml ファイルを開きます。

2 Manager pathname ノードを非コメント化します。

注意：Flex セッションを Tomcat の再起動後まで持続させることはできません。

旧バージョンからの更新

移行手順を省略した場合や、移行する必要がある旧バージョンのインストールに変更を加えている場合は、次の手順に従ってください。

1 サーバーを停止します。

2 <ColdFusion Web アプリケーションの新しいインストールルートディレクトリ >/WEB-INF/cfusion/lib ディレクトリ内に "cf**X**settings" というディレクトリを作成し (**X** の部分は以前の ColdFusion のバージョン番号)、旧バージョンのインストール環境の <ColdFusion Web アプリケーションのルート >/WEB-INF/cfusion/lib/neo-*.xml ファイルをこのディレクトリにコピーすることによって設定を保存します。

3 ColdFusion 10 の cfusion/lib/adminconfig.xml ファイルを開き、runmigrationwizard スイッチと migratecfX スイッチ (X の部分は ColdFusion のバージョン番号) の値を true に設定します。

4 ColdFusion 10 アプリケーションを再起動します。

5 ColdFusion Administrator を表示して、移行ウィザードを実行します。

ColdFusion のアンインストール

ColdFusion をアンインストールすると、ColdFusion のプログラムファイルと関連するコンポーネントがコンピュータからすべて削除されます。

Windows から ColdFusion をアンインストールするには

1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除]-[Adobe ColdFusion 10] を選択します。

2 「変更と削除」をクリックします。

3 アンインストールが完了したら、<ColdFusion のインストールディレクトリ > から自動的に削除されなかったファイルをすべて削除します。

4 アンインストールプログラムによって、コンピュータの再起動を要求される場合もあります。

ColdFusion がサーバーから削除されます。

UNIX から ColdFusion をアンインストールするには

1 root としてログインします。

2 次のコマンドを入力して、<ColdFusion のルートディレクトリ >/uninstall ディレクトリに移動します。

```
cd cf_root/uninstall
```

3 次のコマンドを入力します。

```
./uninstall.sh
```

4 アンインストールが完了したら、<ColdFusion のインストールディレクトリ > から自動的に削除されなかったファイルをすべて削除します。

ColdFusion がサーバーから削除されます。

第 3 章：J2EE 設定のインストール

J2EE 設定のインストールに必要な情報の収集

ColdFusion 10 インストーラには、直感的に操作できるインターフェイスが用意されていますが、インストール時に回答を求められる次の情報はあらかじめ準備しておくことをお勧めします。次の表を使用すると、ColdFusion 10 の J2EE 設定のインストールを計画するときに役立ちます。

質問	回答
プラットフォーム固有のインストーラの名前は何ですか？	_____
ColdFusion のシリアル番号は何番ですか？	_____
インストールするタイプはどれですか？	___ サーバー設定 _X_ J2EE 設定
EAR ファイルと WAR ファイルのいずれを使用しますか？	___ EAR ___ WAR
どのサブコンポーネントをインストールしますか？	___ ColdFusion 10 ODBC Services ___ ColdFusion 10 Solr Services ___ .NET Integration Services ___ ColdFusion 10 マニュアル
ColdFusion およびサービスのインストールディレクトリはどこですか？	_____
ColdFusion のコンテキストルートはどこですか (EAR ファイルのみ、default=cfusion)？	_____
ColdFusion Administrator のパスワードは何ですか？	_____
セキュアプロファイルを有効にするには	___ はい ___ いいえ ColdFusion Administrator にアクセスできる IP アドレスのリストを識別します。
OpenOffice の設定	___ はい ___ いいえ
RDS を有効にしますか？	___ はい ___ いいえ メモ : RDS を使用すると、サーバーは、リモートで接続している開発者と対話的にやり取りすることができます。本番サーバーでは RDS を無効にしておくことをお勧めします。 RDS を無効にすると、ColdFusion Administrator でディレクトリをブラウズするためのアプレットも無効になります。
RDS パスワードは何ですか？	_____
サーバーのアップデートを自動的に確認しますか？	___ はい ___ いいえ

ColdFusion と J2EE アプリケーションサーバー

ColdFusion の主なメリットの 1 つは、統合型サーバー（サーバー設定）としてインストールすることも、標準ベースの J2EE アプリケーションサーバー上で動作する Java アプリケーション（J2EE 設定）としてデプロイすることもできる点にあります。ColdFusion アプリケーションは高度な柔軟性を備えているだけでなく、複数のアプリケーションインスタンスや複数インスタンスのクラスタリングなど、J2EE アーキテクチャの機能を使用できます。

IBM WebSphere などの J2EE アプリケーションサーバーを使用すると、J2EE 設定で ColdFusion をデプロイできます。J2EE 設定を使用する場合は、既存の J2EE アプリケーションサーバーを使用することができます。インストールウィザードは、WAR ファイルまたは EAR ファイルを生成した後、アプリケーションサーバーのツールを使用してそれらのファイルをデプロイします。

EAR または WAR デプロイの選択

J2EE 環境では、次の形式のいずれかを使用してアプリケーションをデプロイします。

Web アプリケーションアーカイブファイル ColdFusion アプリケーションが含まれています。Web Application Archive (WAR) では、WEB-INF/web.xml デプロイメントディスクリプタを含むディレクトリ構造が使用されます。このディスクリプタは、使用するサーブレットとコンテキストのパラメータを定義します。J2EE アプリケーションサーバーで Web アプリケーションをデプロイする際には、このディレクトリ構造に直接デプロイすることも、ディレクトリ構造を含む圧縮 WAR ファイルにデプロイすることもできます。ただし ColdFusion は、展開されたディレクトリ構造から実行する必要があります。

```
cfusion (cfusion.war)
     WEB-INF
       web.xml
     CFIDE
     cfdocs
CFIDE (rds.war)
     WEB-INF
       web.xml
```

"cfusion.war" ファイルには、ColdFusion Web アプリケーションが含まれています。"rds.war" ファイルは、/CFIDE から /< コンテキストルート >/CFIDE に RDS リクエストを転送する Web アプリケーションです。ColdFusion で / 以外のコンテキストルートが使用されている場合、リクエストは ColdFusion Administrator に転送されます。

エンタープライズアプリケーションアーカイブファイル ColdFusion と RDS リダイレクター Web アプリケーションが含まれています。Enterprise Application Archive (EAR) では、META-INF/application.xml デプロイメントディスクリプタを含むディレクトリ構造が使用されます。このディスクリプタは、環境に含まれる Web アプリケーションを定義します。J2EE アプリケーションサーバーでエンタープライズアプリケーションをデプロイする際には、このディレクトリ構造に直接デプロイすることも、ディレクトリ構造を含む圧縮 EAR ファイルにデプロイすることもできます。ただし ColdFusion は、展開されたディレクトリ構造から実行する必要があります。

```
cfusion-ear
     META-INF
       application.xml
     cfusion-war
       WEB-INF
         web.xml
       CFIDE
       cfdocs
     rds.war
       WEB-INF
         web.xml
```

J2EE アプリケーションサーバーがエンタープライズアプリケーションをサポートしている場合は、EAR ファイルをインストールしてデプロイします。詳細については、24 ページの「EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール」を参照してください。

コンテキストルート

J2EE 環境では、複数の独立した Web アプリケーションを 1 台のサーバーインスタンスで実行できるので、サーバーで実行されている J2EE Web アプリケーションのルートは、コンテキストルート (またはコンテキストパス) と呼ばれる固有の URL になります。J2EE アプリケーションサーバーは、URL の最初の部分 (http://< ホスト名 > の直後の部分) を使用して、受信したリクエストをどの Web アプリケーションで処理するかを決定します。

たとえば、**cf10** をコンテキストルートとして ColdFusion を実行している場合は、http://localhost/**cf10**/CFIDE/administrator/index.cfm という URL を使用すると ColdFusion Administrator が表示されます。

ほとんどの J2EE アプリケーションサーバーでは、各サーバーインスタンスのアプリケーションのコンテキストルートとしてスラッシュ (/) を使用できます。コンテキストルートを / に設定すると、以前のバージョンの ColdFusion に最も近い機能がサポートされるため、CFM ページを Web サーバーから提供する場合に特に便利です。また、/ をコンテキストルートとして使用する場合、RDS Web アプリケーションは必要ありません。

ColdFusion を EAR ファイルとしてデプロイする際には、インストールウィザードを実行するときに指定したコンテキストルートが使用されます (指定した値は "META-INF/application.xml" ファイルの context-root 要素にコピーされています)。ColdFusion を WAR ファイルとしてデプロイする際には、アプリケーションサーバー固有の機能を使用してコンテキストルートを定義します。

複数のインスタンス

J2EE 設定を使用する場合は、1 台のコンピュータ上で複数のサーバーインスタンスを定義し、各インスタンスで ColdFusion を実行できます。ColdFusion の複数のインスタンスを実行することには、次のような利点があります。

アプリケーションの隔離 各サーバーインスタンスに個別のアプリケーションをデプロイできます。各サーバーインスタンスの設定はそれぞれ独立しています。各サーバーインスタンスはそれぞれの JVM インスタンス上で実行されるため、1 つのアプリケーションで問題が発生しても他のアプリケーションには影響しません。

負荷分散とフェイルオーバー 各サーバーインスタンスに同じアプリケーションをデプロイし、それらのサーバーインスタンスを 1 つのクラスタに追加します。Web サーバーコネクタは負荷分散を自動的に管理し、いずれかのサーバーインスタンスが停止した場合は別のサーバーインスタンスにリクエストを転送することで、パフォーマンスと安定性を最適化します。

プラットフォーム

一部の例外を除き、ColdFusion のすべての機能は、Windows、Macintosh、Linux、および Solaris で利用できます (COM、.NET、ODBC Services は Windows 専用の機能です)。ただし、AIX は WebSphere アプリケーションサーバーでのみサポートされます。プラットフォーム固有のバイナリファイルによって提供される機能は、AIX では利用できません。また、上記以外のプラットフォームにも完全 Java 版の ColdFusion J2EE 設定をインストールしてデプロイすることは可能ですが、プラットフォーム固有のバイナリファイル (C++ CFX) によって提供される機能は利用できません。

J2EE 設定を使用してインストールする準備

ColdFusion 10 スタンドアローンインストールでは、JRun の代わりに Tomcat が組み込まれます。以前のバージョンの ColdFusion のインストーラーでは、マルチサーバーインストールを作成できましたが、ColdFusion 10 のインストーラーでは、スタンドアローンインストールのみをインストールできます。エンタープライズ版またはデベロッパー版のライセンスを保有している場合は、ColdFusion をスタンドアローンモードでインストールした後に、複数のインスタンスおよびクラスタを作成できます。

注意：この機能はスタンダード版では使用できません。

EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール

コンピュータで既に J2EE アプリケーションサーバーを実行中の場合は、インストールウィザードにより EAR ファイルまたは WAR ファイルが生成されます。これらのファイルはアプリケーションサーバー固有のツールを使用してデプロイすることができます。

ColdFusion J2EE 設定は、展開されたディレクトリ構造から実行する必要があります。次に示すように、デプロイに関連する機能や、展開後のディレクトリ構造は、J2EE アプリケーションサーバーによって異なります。

圧縮されたアーカイブを作業ディレクトリにデプロイします。一部の J2EE アプリケーションサーバー（IBM WebSphere など）では、デプロイ処理を実行すると EAR ／ WAR ファイルが作業ディレクトリに展開されます。それ以後は、展開されたディレクトリがアプリケーションと見なされます。これらのアプリケーションサーバーの場合は、圧縮された EAR/WAR ファイルをデプロイし、展開後のディレクトリ構造を作業ディレクトリとして使用します。詳細については、28 ページの「ColdFusion J2EE のデプロイと設定」を参照してください。

展開されたアーカイブを作業ディレクトリとしてデプロイするには その他のアプリケーションサーバー（Oracle WebLogic など）では、デプロイ処理を実行すると EAR/WAR ファイルがテンポラリディレクトリに展開されます。展開後も、概念上は圧縮された EAR/WAR ファイルがアプリケーションであると見なされます。これらのアプリケーションサーバーの場合は、EAR/WAR ファイルを手動で展開して、展開後のディレクトリ構造をデプロイします (このディレクトリが作業ディレクトリになります)。詳細については、28 ページの「ColdFusion J2EE のデプロイと設定」を参照してください。

Windows での EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール

ここでは、ColdFusion J2EE 設定を Windows にインストールする方法について説明します。

注意：Windows インストーラを実行するには、コンピュータが 256 色以上の表示をサポートしている必要があります。

Windows に ColdFusion をインストールするには (J2EE 設定)

1. オンラインバージョンのリリースノートを参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。詳細については、www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp を参照してください。
2. ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。
3. 2 ページの「Windows でのインストールの注意事項」と 2 ページの「すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項」を確認します。
4. 環境に関する情報を収集して記録します (24 ページの「J2EE 設定を使用してインストールする準備」を参照してください)。
5. 21 ページの「J2EE 設定のインストールに必要な情報の収集」の質問に対する回答を用意します。

6 コンピュータで現在実行中のアプリケーションをすべて閉じます。

7 DVD を挿入するか、Adobe Web サイトからセットアップファイルをダウンロードします。

8 DVD を挿入してもインストールウィザードが自動的に起動しない場合は、DVD 上の適切なインストーラーを探してダブルクリックします。ネットワーク共有またはダウンロードしたファイルを使用してインストールする場合は、ColdFusion インストーラーの実行可能ファイル（32 ビットシステムの場合は ColdFusion_10_WWEJ_win32.exe、64 ビットシステムの場合は ColdFusion_10_WWEJ_win64.exe）を探してダブルクリックします。

9 インストールウィザードの指示に従ってインストール作業を完了します。

10 ColdFusion をデプロイし、アプリケーションサーバーに合わせて Java 設定を行います。詳細については、28 ページの「ColdFusion J2EE のデプロイと設定」を参照してください。

11 ColdFusion Administrator を開いて、設定ウィザードを実行します。

12 Adobe またはサードパーティの統合テクノロジーを追加でインストールするには、45 ページの「統合テクノロジーのインストール」を参照してください。

13 51 ページの「システムの設定」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

14 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [情報源] ページで [マニュアル] リンクをクリックします。

15 ColdFusion CFM ページを作成します。

Web アプリケーションルート (cfusion-ear¥cfusion-war または cfusion-war) の下に CFM ページを格納します。これらのページにアクセスするには、次に説明するように、http://< ホスト名 >:< ポート番号 >/< コンテキストルート >/< ファイル名 >.cfm という形式の URL を使用します。

- < ホスト名 > の部分では、マシン名、IP アドレス、または localhost を指定します。
- < ポート番号 > の部分では、アプリケーションサーバーの Web サーバーが使用するポート番号を指定します。
- < コンテキストルート > の部分では、ColdFusion Web アプリケーションのコンテキストルートを指定します。詳細については、23 ページの「コンテキストルート」を参照してください。
- < ファイル名 > の部分では、表示するファイルのディレクトリパスと名前を指定します。パスには、cfusion-war ディレクトリからの相対パスを使用します。

UNIX での EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール

ここでは、ColdFusion J2EE 設定を UNIX にインストールする方法について説明します。既にデプロイされている ColdFusion の J2EE 設定を更新する場合は、次に進む前に 28 ページの「以前のバージョンの J2EE 設定からの更新」を参照してください。

UNIX に ColdFusion をインストールするには (J2EE 設定)

1 オンラインバージョンのリリースノートを参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。詳細については、www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp を参照してください。

2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。

3 3 ページの「UNIX でのインストールの注意事項」と 2 ページの「すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項」を確認します。

4 環境に関する情報を収集して記録します (24 ページの「J2EE 設定を使用してインストールする準備」を参照してください)。

5 21 ページの「J2EE 設定のインストールに必要な情報の収集」の質問に対する回答を用意します。

6 root としてログインします。

7 プラットフォームとロケールに適したインストールファイルを DVD または Adobe Web サイトからコピーし、ローカルディスクのディレクトリに保存します。

サポートされている J2EE 設定プラットフォーム用のインストールファイルは次のとおりです。

プラットフォーム	ファイル
Linux	• ColdFusion_10_WWEJ_linux32.bin（32 ビットシステム用） • ColdFusion_10_WWEJ_linux64.bin（64 ビットシステム用）
Solaris	ColdFusion_10_WWEJ_solaris64.bin
UNIX (Solaris および Linux 以外)	ColdFusion_10_WWEJ_java.jar

8 cd コマンドを使用して、インストールファイルが保存されているディレクトリに移動します。

9 次のコマンドを使用してインストール作業を開始します。

```
./<filename> -i console
```

インストールプログラムが開始されます。

ColdFusion_10_WWEJ_java.jar ファイルを使用して Solaris および Linux 以外の UNIX プラットフォームにインストールするには、次のコマンドを入力します。詳細については、3 ページの「UNIX でのインストールの注意事項」を参照してください。

```
java_home/bin/java -jar ColdFusion_10_WWEJ_java.jar -i console
```

注意：Linux インストーラーを GUI モードで実行するには、と入力します。/<filename> -i gui と入力します。

10 指示に従いインストール作業を完了させます。

注意：セキュリティ上の理由から、実行時のユーザーには root を使用しないでください。代わりに、ログインシェルを持たない通常のユーザーアカウントを使用してください。たとえば、このような目的のために用意されているデフォルトのユーザーアカウント nobody などを使用することをお勧めします。

11 ColdFusion をデプロイし、アプリケーションサーバーに合わせて Java 設定を行います。

詳細については、28 ページの「ColdFusion J2EE のデプロイと設定」を参照してください。

注意："rds.war" ファイルをデプロイした場合に、RDS がインストールされていないか有効ではないことを示すエラーメッセージが表示されたときは、ColdFusion のコンテキストルートと一致するように "rds.properties" ファイルを編集し、アプリケーションサーバーを再起動して、再度、ColdFusion Administrator を開きます。

12 ColdFusion Administrator を開いて、設定ウィザードを実行します。

13 51 ページの「システムの設定」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

14 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [情報源] ページで [マニュアル] リンクをクリックします。

15 ColdFusion CFM ページを生成し、テストします。

Web アプリケーションルート (cfusion-ear/cfusion-war または cfusion-war) の下に CFM ページを格納します。これらのページにアクセスするには、次に説明するように、http://< ホスト名 >:< ポート番号 >/< コンテキストルート >/< ファイル名 >.cfm という形式の URL を使用します。

- < ホスト名 > の部分では、マシン名、IP アドレス、または localhost を指定します。
- < ポート番号 > の部分では、アプリケーションサーバーの Web サーバーが使用するポート番号を指定します。

- < コンテキストルート > の部分では、ColdFusion Web アプリケーションのコンテキストルートを指定します。詳細については、23 ページの「コンテキストルート」を参照してください。
- < ファイル名 > の部分では、表示するファイルのディレクトリパスと名前を指定します。パスには、cfusion-war ディレクトリからの相対パスを使用します。

Mac OS X での EAR ファイルまたは WAR ファイルのインストール

ここでは、ColdFusion J2EE 設定を Mac OS X にインストールする方法について説明します。既にデプロイされている ColdFusion 8 の J2EE 設定を更新する場合は、次に進む前に、28 ページの「以前のバージョンの J2EE 設定からの更新」を参照してください。

Mac OS X に ColdFusion をインストールするには (J2EE 設定)

1 オンラインバージョンのリリースノートを参照して、最新情報やアップデートがないかどうかを確認します。

   詳細については、www.adobe.com/go/learn_cfu_releasenote_jp を参照してください。

2 ご使用のオペレーティングシステムが Adobe の Web サイト www.adobe.com/go/learn_cfu_cfsysreqs_jp に記載されているシステム条件を満たしていることを確認してください。

3 3 ページの「UNIX でのインストールの注意事項」と 2 ページの「すべてのプラットフォームに共通するインストールの注意事項」を確認します。

4 環境に関する情報を収集して記録します (24 ページの「J2EE 設定を使用してインストールする準備」を参照してください)。

5 21 ページの「J2EE 設定のインストールに必要な情報の収集」の質問に対する回答を用意します。

6 root としてログインします。

7 プラットフォームとロケールに適したインストールファイルを DVD または Adobe Web サイトからコピーし、ローカルディスクのディレクトリに保存します。

   サポートされている J2EE 設定プラットフォーム用のインストールファイルは次のとおりです。

   - ColdFusion_10_WWEJ_osx10.dmg - Mac OS X システムへのインストール用

8 デスクトップにあるインストールファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。同じディレクトリに "ColdFusion 10 Installer.app" ファイルがインストールされます。GUI モードでインストールを開始するには、この APP ファイルをダブルクリックします。

9 指示に従いインストール作業を完了させます。

   注意：セキュリティ上の理由から、実行時のユーザーには root を使用しないでください。代わりに、ログインシェルを持たない通常のユーザーアカウントを使用してください。たとえば、このような目的のために用意されているデフォルトのユーザーアカウント nobody などを使用することをお勧めします。

10 ColdFusion をデプロイし、アプリケーションサーバーに合わせて Java 設定を行います。詳細については、28 ページの「ColdFusion J2EE のデプロイと設定」を参照してください。

   注意："rds.war" ファイルをデプロイした場合に、RDS がインストールされていないか有効ではないことを示すエラーメッセージが表示されたときは、ColdFusion のコンテキストルートと一致するように "rds.properties" ファイルを編集し、アプリケーションサーバーを再起動して、再度、ColdFusion Administrator を開きます。

11 ColdFusion Administrator を開いて、設定ウィザードを実行します。

12 51 ページの「システムの設定」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

13 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [情報源] ページで [マニュアル] リンクをクリックします。

14 ColdFusion CFM ページを生成し、テストします。

Web アプリケーションルート (cfusion-ear/cfusion-war または cfusion-war) の下に CFM ページを格納します。これらのページにアクセスするには、次に説明するように、http://< ホスト名 >:< ポート番号 >/< コンテキストルート >/< ファイル名 >.cfm という形式の URL を使用します。

- < ホスト名 > の部分では、マシン名、IP アドレス、または localhost を指定します。
- < ポート番号 > の部分では、アプリケーションサーバーの Web サーバーが使用するポート番号を指定します。
- < コンテキストルート > の部分では、ColdFusion Web アプリケーションのコンテキストルートを指定します。詳細については、23 ページの「コンテキストルート」を参照してください。
- < ファイル名 > の部分では、表示するファイルのディレクトリパスと名前を指定します。パスには、cfusion-war ディレクトリからの相対パスを使用します。

以前のバージョンの J2EE 設定からの更新

アプリケーションサーバーに ColdFusion J2EE 設定が既にデプロイされている場合は、インストール手順の一部として次の作業も行う必要があります。

1 アプリケーションサーバーの機種に応じて、インストールウィザードを開始する前に、実行中の ColdFusion アプリケーションまたは RDS アプリケーションを停止するか、アプリケーションサーバーを停止します。

2 (Windows のみ) SequelLink ODBC Agent がインストールされている場合は、インストールウィザードを開始する前に ODBC サービスを停止します。

3 アプリケーションファイルをバックアップディレクトリにコピーします。

4 設定を保存するために、<ColdFusion Web アプリケーションのルート >/WEB-INF/cfusion/lib/neo-*.xml ファイルをバックアップディレクトリにコピーします。

5 ColdFusion 10 をデプロイする前に、アプリケーションサーバー固有のアンデプロイ機能を使用して既存の ColdFusion アプリケーションをアンデプロイします。

6 30 ページの「IBM WebSphere への ColdFusion 10 のデプロイ」、36 ページの「Oracle WebLogic への ColdFusion 10 のデプロイ」または 39 ページの「JBoss Application Server への ColdFusion 10 のデプロイ」の説明に従って ColdFusion 10 をデプロイします。

7 <ColdFusion Web アプリケーションのルート >/WEB-INF/cfusion/lib ディレクトリに、cf**X**settings (**X** の部分は ColdFusion のバージョン番号) という名前のディレクトリを作成します。

8 バックアップした設定ファイルを ColdFusion 10 の cfusion/lib/cf**X**settings ディレクトリにコピーします。

9 ColdFusion 10 の cfusion/lib/adminconfig.xml ファイルを開き、runmigrationwizard スイッチと migratecf**X** スイッチ (**X** の部分は ColdFusion のバージョン番号) の値を true に設定します。

10 ColdFusion 10 アプリケーションを再起動します。

11 ColdFusion Administrator を表示して、移行ウィザードを実行します。

注意：移行ウィザードでは ColdFusion 9 からの設定の移行のみがサポートされています。

ColdFusion J2EE のデプロイと設定

J2EE 設定は、アプリケーションサーバーの種類に応じて、圧縮または展開された状態で処理されます。各アプリケーションサーバーには、次の表に示すような、固有のデプロイおよび設定メカニズムがあります。

アプリケーションサーバー	デプロイのメカニズム	デプロイの状態 (展開または圧縮)
Apache Tomcat	Tomcat Deployment Manager	展開
IBM WebSphere	IBM WebSphere 管理コンソール	圧縮
Oracle WebLogic	WebLogic Administration Console / サーバードメインへのオートデプロイ	展開
JBOSS Application Server	サーバールートへのオートデプロイ	展開
Oracle Weblogic Server	Oracle Weblogic Server Administration Console	展開

デプロイに関する基本的な情報については、J2EE アプリケーションサーバーのマニュアルを参照してください。ColdFusion のデプロイ手順は J2EE アプリケーションサーバーの種類ごとに異なります。詳細については、アプリケーションサーバーごとのデプロイに関する説明を参照してください。

J2EE ディレクトリ構造

次の表では、J2EE 設定を使用する場合に <ColdFusion Web アプリケーションのルート > ディレクトリ内に作成されるディレクトリについて説明します。

ディレクトリ	説明
cfdocs	ColdFusion のマニュアル
CFIDE	ColdFusion Administrator に関連するファイル
WEB-INF/cfclasses	ColdFusion アプリケーションでコンパイルされた ColdFusion テンプレート
WEB-INF/cfc-skeletons	Web サービスとしてエクスポートされた ColdFusion コンポーネントをサポートするためのファイル
WEB-INF/cfform	Flash フォームをサポートするためのファイル
WEB-INF/cftags	ColdFusion 用テンプレート
WEB-ING/flex	LiveCycle Data Services ES の設定およびファイル
WEB-INF/gateway	イベントゲートウェイをサポートするためのファイル
WEB-INF/cfusion/bin	ColdFusion により使用される実行可能ファイル
WEB-INF/cfusion/cfx	CFX タグインクルードファイルと例
WEB-INF/cfusion/charting	ColdFusion のグラフ作成およびチャート作成エンジンで使用されるファイル
WEB-INF/cfusion/Custom Tags	カスタムタグ用のレポジトリ
WEB-INF/cfusion/db	すべてのプラットフォームに共通するサンプルデータベース。これらのデータベースは Apache Derby データベースです。
WEB-INF/cfusion/jintegra	JIntegra プログラム、ライブラリ、およびその他のサポートファイル (たとえば、Java と COM コードを統合したり、GUI コンテナに含まれる ActiveX コントロール (OCX) へのアクセスを管理したり、JVM やタイプライブラリを登録するためのファイルなど)。
WEB-INF/cfusion/lib WEB-INF/lib および WEB-INF/cfusion/MonitoringServer	JAR ファイル、XML ファイル、プロパティファイル、および ColdFusion の基盤となるその他のファイル（クエリ、グラフ作成、メール、セキュリティ、Solr 検索、システムプローブなどの機能）。
WEB-INF/cfusion/logs	ColdFusion ログファイル
WEB-INF/cfusion/Mail	ColdFusion がメールで使用するファイル (スプールファイルなど)

ディレクトリ	説明
WEB-INF/cfusion/registry	cfregistry タグによって使用されるディレクトリ (UNIX のみ)
WEB-INF/cfusion/stubs	Web サービスのコンパイル済みコード
WEB-INF/cfusion/solr	Solr 設定および Jetty

IBM WebSphere への ColdFusion 10 のデプロイ

ここでは、ColdFusion 10 を IBM WebSphere Application Server（AS）、Network Deployment（ND）にデプロイする方法について説明します。

次の用語が表す WebSphere および ColdFusion のディレクトリは次のとおりです。

<WebSphere のルート > IBM WebSphere Application Server がインストールされているディレクトリ。たとえば、Windows では C:¥Program Files¥WebSphere、UNIX では /opt/WebSphere になります。

<ColdFusion Web アプリケーションのルート > ColdFusion Web アプリケーションがデプロイされるディレクトリ。例えば、Windows では C:¥Program Files¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥<**My_Host**>¥cfusion.ear¥cfusion.war、UNIX では /opt/WebSphere/AppServer/installedApps/<**My_Host**>/cfusion.ear/cfusion.war になります。

<Java のホームディレクトリ > Java 2 ソフトウェア開発キット（J2SDK）のルートディレクトリです（C:¥j2sdk1.6.0_29 など）。

ColdFusion 10 を WebSphere 7 または 8（AS）にデプロイするには

1. IBM WebSphere Application Server が起動していない場合は起動します。
2. IBM WebSphere 管理コンソールが起動していない場合は開きます。
3. [Applications]-[Install New Application] を選択します。
4. [Preparing for the Application Installation] ページが表示されたら、ローカルファイルシステム用のテキストボックスに、ColdFusion のインストール時にインストールした EAR ファイルのパス (たとえば、C:¥ColdFusion10¥cfusion.ear) を入力します。

   WebSphere が動作しているシステム（つまり localhost）以外のブラウザーから管理コンソールを実行している場合は、「Remote file system」オプションを使用します。これにより、サーバーのファイルシステム上のディレクトリを参照できるようになります。
5. [Context Root] ボックスは空欄のままにして [Next] をクリックします。
6. 2 番目の Select Installation Options ページでは、デフォルト値が WebSphere の設定に適している場合はそのまま受け入れて、「次へ」をクリックします。

   場合によっては [Application Security Warnings] ページが表示され、このページの下部に "ADMA0080W: A template policy file without any permission set is included in the 1.2.x enterprise application." で始まるメッセージが表示されることがあります。この警告は無視してもかまいません。
7. 複数のアプリケーションサーバーがある場合は、ColdFusion アプリケーションと RDS サポートをインストールするアプリケーションサーバーを選択し、[Next] をクリックします。
8. [Map Virtual Hosts for Web Modules] パネルが表示されたら、ColdFusion 10 アプリケーションと RDS (Remote Development Services) サポートをインストールする仮想ホストを選択し、[Next] をクリックします。

   RDS の仮想ホストとポートは、ColdFusion 10 と同じである必要があります。
9. [Summary] パネルが表示されたら、インストール設定を確認し、[Finish] をクリックします。

10 [Installing] ページに "Application Adobe ColdFusion 10 Installed Successfully" というメッセージが表示されたら、[Save To Master Configuration] を選択し、[Save] ページにある [Save] をクリックして、ワークスペースを保存します。

アプリケーション名をデフォルト値から変更した場合は、その名前がメッセージに表示されます。

11 Adobe ColdFusion 10 という名前のエンタープライズアプリケーションを起動します。

12 ColdFusion Administrator を表示して、設定ウィザードを実行します。

注意：アプリケーションサーバーで使用するバージョンに対応する tools.jar を、cfusion/lib ディレクトリにコピーします。

ColdFusion 10 を WebSphere 7 または 8（ND）にデプロイするには

1 IBM WebSphere Application Server が起動していない場合は起動します。

2 IBM WebSphere 管理コンソールが起動していない場合は開きます。

3 [Applications]-[Install New Application] を選択します。

4 [Preparing for the Application Installation] ページが表示されたら、ローカルファイルシステム用のテキストボックスに、ColdFusion のインストール時にインストールした EAR ファイルのパス (たとえば、C:¥ColdFusion10¥cfusion.ear) を入力します。

WebSphere が動作しているシステム（つまり localhost）以外のブラウザーから管理コンソールを実行している場合は、「Remote file system」オプションを使用します。これにより、サーバーのファイルシステム上のディレクトリを参照できるようになります。

5 [Context Root] ボックスは空欄のままにして [Next] をクリックします。

6 2 番目の Select Installation Options ページでは、デフォルト値が WebSphere の設定に適している場合はそのまま受け入れて、「次へ」をクリックします。

場合によっては [Application Security Warnings] ページが表示され、このページの下部に "ADMA0080W: A template policy file without any permission set is included in the 1.2.x enterprise application." で始まるメッセージが表示されることがあります。この警告は無視してもかまいません。

7 ColdFusion アプリケーションと RDS サポートをインストールするクラスタを選択し、[Next] をクリックします。

8 [Map Virtual Hosts for Web Modules] パネルが表示されたら、ColdFusion 10 アプリケーションと RDS (Remote Development Services) サポートをインストールする仮想ホストを選択し、[Next] をクリックします。

RDS の仮想ホストとポートは、ColdFusion 10 と同じである必要があります。

9 [Summary] パネルが表示されたら、インストール設定を確認し、[Finish] をクリックします。

10 [Installing] ページに "Application Adobe ColdFusion 10 Installed Successfully" というメッセージが表示されたら、[Save To Master Configuration] を選択し、[Save] ページにある [Save] をクリックして、ワークスペースを保存します。

アプリケーション名をデフォルト値から変更した場合は、その名前がメッセージに表示されます。

11 Adobe ColdFusion 10 という名前のエンタープライズアプリケーションを起動します。

12 ColdFusion Administrator を表示して、設定ウィザードを実行します。

注意：アプリケーションサーバーで使用するバージョンに対応する tools.jar を、cfusion/lib ディレクトリにコピーする必要があります。

WebSphere ND では、1 台のコンピュータにアプリケーションサーバーのクローンを複数デプロイすることを一般に " 垂直クラスタリング " と言います。垂直クラスタリングでは、コンピュータの処理能力を活用して、より高いレベルの効率化を図れます。ただし、全体的なコンピュータ障害が発生すると、すべてのアプリケーションサーバーインスタンスが利用でき

なくなります。垂直クラスタにデプロイされたアプリケーションは同じファイルシステムを共有します。複数のコンピュータに複数のアプリケーションサーバーをデプロイすることを一般に " 水平クラスタリング " と言い、最高レベルのフェイルオーバーとスケーリングが実現されます。ColdFusion 10 をクラスタ環境にデプロイする手順は、クラスタリング方法に関係なく同じです。これは、WebSphere Network Deployment Manager でクラスタが管理されるからです。

サンドボックスセキュリティを有効にするには

1 ColdFusion サンドボックスセキュリティ機能を使用して Java がファイルやネットワークリソースにアクセスするときの安全性を確保するには、次の操作を行います。

   a WebSphere 管理コンソールの [Security]-[Secure Administration] パネルで、[Java 2 Security] オプションがオンになっていることを確認します。

   b [Apply] をクリックし、[Save] をクリックします。

2 JVM のセキュリティポリシーファイル java.policy の「Standard Properties That Can Be Read By Anyone」セクションに次の行を追加します（このファイルは、C:¥Program Files¥WebSphere¥AppServer¥java¥jre¥lib¥security¥java.policy などにあります）。

```
grant {
permission java.security.AllPermission;
};
```

Windows でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

この手順は、オペレーティングシステム固有のバイナリを使用する次の機能をサポートするために必要です。

- C++ で記述された CFX タグ
- Unicode 対応の Microsoft Access ドライバ

  この設定を行うには、<ColdFusion Web アプリケーションのルート >¥WEB-INF¥cfusion¥lib ディレクトリにあるバイナリファイルを探すための検索パスを設定します。

検索パスを設定するには

1 <WebSphere のルート >¥AppServer¥bin ディレクトリにある "setupCmdLine.bat" ファイルのバックアップコピーを作成します。

2 オリジナルのファイルをテキストエディタで開き、SET WAS_CLASSPATH で始まる行の前に次の行を追加します。

```
SET CF_APPS_PATH=cf_webapp_root\WEB-INF\cfusion\lib
```

   cf_webapp_root の部分は、Web アプリケーションのルートディレクトリのパスに置き換えてください。たとえば、次のように入力します。

```
SET CF_APPS_PATH=%WAS_HOME%\installedApps\%WAS_CELL%\ Adobe_ColdFusion_10.ear\cfusion.war\WEB-
INF\cfusion\lib;%WAS_HOME%\installedApps\%WAS_CELL%\ Adobe_ColdFusion_10.ear\cfusion.war\WEB-
INF\flex\jars
```

3 パスステートメントに次のテキストを追加して、WAS_CLASSPATH に WAS_CLASSPATH 変数を追加します。

```
;%CF_APPS_PATH%
```

   変更後の WAS_CLASSPATH 行は次のようになります。

```
SET
WAS_CLASSPATH=%WAS_HOME%/properties;%WAS_HOME%/lib/bootstrap.jar;%WAS_HOME%/lib/j2ee.jar;%WAS_HOME%/li
b/lmproxy.jar;%WAS_HOME%/lib/urlprotocols.jar;%CF_APPS_PATH%
```

4 ファイルを保存します。

5 "setupCmdLine.bat" ファイルの WAS_PATH 変数に、<ColdFusion Web アプリケーションのルート >¥WEB-INF¥cfusion¥lib ディレクトリの絶対パスを追加します。変更後の WAS_PATH 行は次のようになります。

```
SET WAS_PATH=%WAS_HOME%\bin;%JAVA_HOME%\bin;%JAVA_HOME%\jre\bin;%PATH%;C:\Program Files\IBM\WebSphere
MQ\bin;C:\Program Files\IBM\WebSphere MQ\java\bin;C:/Program Files/IBM/WebSphere
MQ/WEMPS\bin;%CF_APPS_PATH%;
```

6 ファイルを保存します。

Windows で COM サポートを有効にするには

Crystal Reports で cfreport タグを使用するには、ColdFusion 10 のインストール後に Windows で Component Object Model (COM) サポートを有効にします。ColdFusion Report Builder や ColdFusion のレポート機能を使用してレポートを作成する場合は、COM サポートを有効にする必要はありません。

1 <WebSphere のルート >¥AppServer¥bin ディレクトリにある "setupCmdLine.bat" ファイルのバックアップコピーを作成します。

2 オリジナルのファイルを開き、次のコードを、改行を入れずに 1 行として追加します。

```
SET PATH=%PATH%;cf_webapp_root\WEB-INF\cfusion\jintegra\bin;cf_webapp_root\WEB-
INF\cfusion\jintegra\bin\international
```

cf_webapp_root の部分は、Web アプリケーションのルートディレクトリのパスに置き換えてください。たとえば、次のように入力します。

```
SET PATH=%PATH%;%WAS_HOME%\installedApps\%WAS_CELL%\AdobeColdFusion10.ear\cfusion.ear\cfusion.war\WEB-
INF\cfusion\jintegra\bin;%WAS_HOME%\installedApps\%WAS_CELL%\Adobe_ColdFusion_10.ear\cfusion.war\WEB-
INF\cfusion\jintegra\bin\international
```

3 ファイルを保存します。

場合によっては、次の操作を行って Microsoft Type ビューアを登録する必要があります。

4 コンソールウィンドウを開き、<ColdFusion Web アプリケーションのルート >¥WEB-INF¥cfusion¥lib ディレクトリに移動します。

5 次のコマンドを発行して TypeViewer.dll を登録します。

```
regsvr32 TypeViewer.dll
```

Solaris または Linux でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

この手順は、オペレーティングシステム固有のバイナリを使用する、C++ で記述された CFX タグをサポートするために必要です。

<ColdFusion Web アプリケーションのルート >/WEB-INF/cfusion/lib ディレクトリにあるバイナリファイルを探すための検索パスを設定する必要があります。

検索パスを設定するには

1 <WebSphere のルート >/AppServer/bin ディレクトリにある "startServer.sh" ファイルのバックアップコピーを作成します。

この説明では、標準のアプリケーション名 (Adobe ColdFusion 10) を使用して ColdFusion がデプロイされ、その後もアプリケーション名が変更されていないことを前提としています。

2 オリジナルのファイルを開き、PLATFORM case ブロックの LD_LIBRARY_PATH 行または LIBPATH 行の直前に、次のエントリを改行を入れずに 1 行として追加します。

Solaris の場合 :

```
CFUSION_APPS_PATH=cf_webapp_root/WEB-INF/cfusion/lib
```

cf_webapp_root の部分は、Web アプリケーションのルートディレクトリのパスに置き換えてください。たとえば、次のように入力します。

```
CF_APPS_PATH="$WAS_HOME"/installedApps/"$WAS_CELL"/
    Adobe_ColdFusion_10.ear/cfusion.war/WEB-INF/cfusion/lib
```

Linux の場合 :

```
CF_APPS_PATH=cf_webapp_root/WEB-INF/cfusion/lib
```

cf_webapp_root の部分は、Web アプリケーションのルートディレクトリのパスに置き換えてください。たとえば、次のように入力します。

```
CF_APPS_PATH="$WAS_HOME"/installedApps/"$WAS_CELL"/ Adobe_ColdFusion_10.ear/cfusion.war/WEB-
INF/cfusion/lib
```

3 LD_LIBRARY_PATH エントリに CF_APPS_PATH 環境変数を追加します。変更後のエントリは次のようになります。

```
LD_LIBRARY_PATH="$WAS_LIBPATH":$LD_LIBRARY_PATH:$CF_APPS_PATH
```

4 ファイルを保存し、WebSphere Application Server を再起動します。

UNIX で ColdFusion のチャートおよびグラフ作成機能を有効にするには

1 WebSphere 管理コンソールを開きます。

2 左ナビゲーションバーで [< ノード名 >]-[Servers]-[Application Servers] を選択します。

3 J2EE アプリケーションサーバー (Server1 など) を選択します。

4 [Java and Process Management] で [Process Definition] を選択します。

5 [Process Definition] ページの [Additional Properties] ボックスで [Java Virtual Machine] を選択します。

6 モニタなしのシステムで ColdFusion 10 を実行している場合は、次のようにします。

   a ページ下部にある [Additional Properties] ボックスで [Custom Properties] を選択します。

   b [Custom Properties] ページで [New] を選択し、次のフィールドに値を入力してシステムプロパティを追加します。

```
Name java.awt.headless
Value true
```

7 「OK」をクリックします。

8 マスター設定ファイルを保存します。

RDS を無効にするには

セキュリティ上の理由から、本番サーバー上では RDS を無効にすることをお勧めします。ColdFusion 10 のインストール時に RDS を有効にした場合は、次の手順で無効にすることができます。

RDS を無効にすると、ColdFusion 10 の次の機能が無効になります。

- ColdFusion Administrator の [サーバーのブラウズ] ボタン (このボタンは [ColdFusion マッピング] ページなどにあります)
- ColdFusion Report Builder のクエリービルダーとチャート作成機能

UNIX で RDS を無効にするには

1 ColdFusion を停止します。

2 WebSphere 管理コンソールで、[Applications]-[Enterprise Applications] パネルを選択し、Adobe ColdFusion 10 アプリケーションを選択して [Stop] をクリックします。

3 <ColdFusion Web アプリケーションのルート >¥WEB-INF¥web.xml ファイルと <WebSphere のルート >¥AppServer¥config¥cells¥NodeName¥applications¥<ColdFusion アプリケーション名 >.ear¥deployments¥<ColdFusion アプリケーション名 >¥cfusion.war¥WEB-INF¥web.xml ファイル (UNIX の場合はそれに相当するパス) を開き、次のように修正します。たとえば、次のファイルを変更します。

Windows で RDS を無効にするには

1 ColdFusion の Web モジュールファイル web.xml をバックアップします（このファイルは C:¥Program Files¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥**<MY_NODE>**¥cfusion.ear¥cfusion.war¥WEB-INF¥web.xml または C:¥Program Files¥WebSphere¥AppServer¥config¥cells¥**<MY_NODE>**¥applications¥cfusion.ear¥deployments¥Adobe ColdFusion 10¥cfusion.war¥WEB-INF¥web.xml にあります)。

2 オリジナルの "web.xml" ファイルをテキストエディタで開きます。

3 次のように、RDS サーブレット定義をコメント化します。

```
<!-- <servlet id="coldfusion_servlet_8789"> <servlet-name>RDSServlet</servlet-name> <display-name>RDS Servlet</display-name><servlet-class>coldfusion.bootstrap.BootstrapServlet</servlet-class> <init-param id="InitParam_103401311065856789"><param-name>servlet.class</param-name> <param-value>coldfusion.rds.RdsFrontEndServlet</param-value></init-param> </servlet> -->
```

実際のサーブレット定義のテキストは異なる場合があります。

4 次のように、RDS サーブレットのマッピングをコメント化します。

```
<!--
<servlet-mapping id="coldfusioon_mapping_9">
<servlet-name>RDSServlet</servlet-name>
<url-pattern>/CFIDE/main/ide.cfm</url-pattern>
</servlet-mapping>
-->
```

実際の servlet-mapping id の値は異なる場合があります。

5 ファイルを保存します。

a ColdFusion 10 アプリケーションを再起動します。

b ColdFusion 10 を / 以外のコンテキストルートにインストールした場合は、次の手順に従うことで、RDS リダイレクター Web モジュールを無効にするかアンデプロイすることができます。

6 WebSphere 管理コンソールで [< セル名 >]-[Applications]-[Enterprise Applications] を選択します。

7 Adobe ColdFusion 10 アプリケーションが実行されている場合は停止します。

8 Adobe ColdFusion 10 アプリケーションを選択して、[Manage Modules] を選択し、ColdFusion RDS アプリケーションのチェックボックスをオンにして、[Remove] をクリックします。

アプリケーションサーバー設定を適用するには

アプリケーションサーバー設定を適用するには、アプリケーションサーバーを再起動します。

ColdFusion 10 を設定するには

WebSphere Application Server ND を使用する前に、次の設定が正しく行われていることを確認します。

イベントゲートウェイ Socket ゲートウェイインスタンスのスタートアップモードが manual に設定されていることを確認します。特に、垂直クラスタを使用する場合は、Automatic に設定しないように注意してください。垂直クラスタに含まれるインスタンスを 1 つ選択し、そのインスタンスで Socket ゲートウェイを手動で起動します。

セッションレプリケーション ColdFusion 固有のデータ型を使用しないようにするか、それらのデータ型を WDDX にシリアル化してセッションスコープに文字列として格納します。

ColdFusion Administrator :

- 垂直クラスタ環境では、同じサービスに対して同時に変更を加えないようにしてください。
- 水平クラスタ環境では、サーバーごとに固有の ColdFusion Administrator があります。1 度に複数のサーバーを変更することはできません。
- 垂直クラスタ環境では、ColdFusion Administrator によりスケジュールされたタスクが、すべてのサーバー上でスケジュールされます。

Solr サーバー 各サーバーコンピュータ上で実行できる Solr 検索サーバーは 1 つのみです。

コンパイル プリコンパイル済みのクラスを使用し、[信頼できるキャッシュ] の設定が有効になっていることを確認します。

Oracle WebLogic への ColdFusion 10 のデプロイ

ここでは、ColdFusion 10 を Oracle WebLogic 11g にデプロイする方法について説明します。WebLogic に ColdFusion 10 をデプロイするには、展開した EAR ファイルまたは WAR ファイルを使用します。

次の用語が表す ColdFusion のディレクトリは次のとおりです。

<ColdFusion のインストールディレクトリ > ColdFusion のインストール時に抽出されたファイルを含むディレクトリです (C:¥cf10 や /opt/cf10 など)。

<WebLogic のルート > WebLogic を含むディレクトリです（C:¥Oracle など）。

<WebLogic ドメインのルート > ColdFusion がデプロイされている WebLogic ドメインを含むディレクトリです。

<ColdFusion Web アプリケーションのルート > ColdFusion Web アプリケーションがデプロイされているディレクトリです（C:¥Oracle¥user_projects¥cfdomain¥applications¥cfusion-war など）。

<Java のホームディレクトリ > Java 2 ソフトウェア開発キット（J2SDK）のルートディレクトリです（C:¥jdk1.6.0 など）。

WebLogic への ColdFusion 10 のインストール

1. ColdFusion インストールウィザードを起動して J2EE 設定を選択します。

   インストールウィザードにより、WAR ファイルがインストールディレクトリにコピーされます。

2. ColdFusion 10 をデプロイする WebLogic ドメインを決定します。必要な場合は、新しいドメインを作成します。
3. ColdFusion 10 は展開されたディレクトリ構造から実行する必要があるため、次の手順で "cfusion.war" ファイルと "rds.war" ファイルを手動で展開し、Web アプリケーションを展開します。

   a コンソールウィンドウを開き、WAR ファイルが存在するディレクトリに移動して、ColdFusion 用の WAR ファイルを格納するためのディレクトリを任意の名前で作成した後 (このディレクトリがコンテキストルートになります)、RDS 用の WAR ファイルを格納するためのディレクトリを CFIDE という名前で作成します。入力するコマンドは次のとおりです。

   ```
   cd cf_install_directory
   md cfusion (Windows, mkdir cfusion on UNIX)
   md CFIDE (Windows, mkdir CFIDE on UNIX)
   ```

   b cfusion ディレクトリに移動し、jar コマンドを使用して "cfusion.war" ファイルを展開します。入力するコマンドは次のとおりです。

   ```
   cd cfusion
   java_home/bin/jar -xvf ../cfusion.war
   ```

   c 次のコマンドを使用して、1 レベル上のインストールディレクトリに移動します。

```
cd ..
```

d CFIDE ディレクトリに移動し、jar コマンドを使用して "rds.war" ファイルを展開します。入力するコマンドは次のとおりです。

```
cd CFIDE
java_home/bin/jar -xvf ../rds.war
```

4 オリジナルの "weblogic.policy" ファイルを開きます。WebLogic 11g では、このファイルは **WebLogic_HOME**/wlserver_10.0/server/lib/ ディレクトリにあります。次の例に示すように、テキストエディタを使用して、default permissions セクションで指定されている限定的なアクセス許可をコメント化して、java.security.AllPermission; というエントリを追加します。

```
...
// default permissions granted to all domains
grant {
permission java.security.AllPermission;
/*

    permission java.util.PropertyPermission "java.version", "read";
    permission java.util.PropertyPermission "java.vendor", "read";
    ...
    permission java.util.PropertyPermission "java.vm.name", "read";
*/
};
...
```

5 サイト固有の WebLogic デプロイ方法を使用して、cfusion と CFIDE のディレクトリ構造をデプロイします。

6 次の jar が起動スクリプトのクラスパスに存在していることを確認します。

```
WEB-INF/cfusion/lib/jintegra.jar
WEB-INF/flex/jars/cfgatewayadapter.jar
WEB-INF/flex/jars/concurrent.jar
```

7 コンソールメッセージとサーバーログを参照して ColdFusion 10 が正しくデプロイされたことを確認します。

8 ColdFusion Administrator を起動して、設定ウィザードを実行します。

9 Adobe またはサードパーティの統合テクノロジーを追加でインストールするには、45 ページの「統合テクノロジーのインストール」を参照してください。

10 51 ページの「システムの設定」で説明されているようにシステムを設定して管理します。

11 ColdFusion のマニュアルを参照するには、ColdFusion Administrator の [情報源] ページで [マニュアル] リンクをクリックします。

注意：アプリケーションサーバーで使用するバージョンに対応する tools.jar を、cfusion/lib ディレクトリにコピーする必要があります。

Windows でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを探します。通常、このファイルは "startWebLogic cmd" という名前で、<WebLogic ドメインのルート >¥bin ディレクトリに保存されています。

2 このファイルのバックアップコピーを作成します。

3 起動スクリプトを開きます。

4 スクリプトの先頭にある次の基本変数を設定します。

- CF_WEB_INF
- CF_SHARED_LIB

たとえば、次のようになります。

```
SET CF_WEB_INF=cf_webapp_root\WEB-INF
SET CF_SHARED_LIB=%CF_WEB_INF%\cfusion\lib
```

5 起動スクリプトを保存し、WebLogic サーバーを再起動します。

Windows で COM サポートを有効にするには

1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを開きます。通常、このファイルは "startWebLogic cmd" という名前で、<WebLogic ドメインのルート >¥bin ディレクトリに保存されています。

2 次の変数を設定します。

- JINTEGRA_PATH
- PRE_CLASSPATH
- PRE_PATH

たとえば、次のようになります。

```
SET JINTEGRA_PATH= %CF_WEB_INF%\cfusion\jintegra\bin;
%CF_WEB_INF%\cfusion\jintegra\bin\international
SET PRE_CLASSPATH=%CF_SHARED_LIB%\jintegra.jar
SET PRE_PATH=%CF_SHARED_LIB%;%JINTEGRA_PATH%
```

UNIX でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを探します。通常、このファイルは "startWebLogic.sh" という名前で、<WebLogic ドメインのルート >¥bin ディレクトリに保存されています。

2 このファイルのバックアップコピーを作成します。

3 起動スクリプトを開きます。

4 スクリプトの先頭にある次の基本変数を設定します。

- CF_WEB_INF
- CF_SHARED_LIB

たとえば、次のようになります。

```
CF_WEB_INF=cf_webapp_root/WEB-INF
CF_SHARED_LIB=${CF_WEB_INF}/cfusion/lib
```

5 起動スクリプトを保存し、WebLogic サーバーを再起動します。

Windows で ColdFusion セキュリティを有効にするには

1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを開きます。通常、このファイルは "startWebLogic cmd" という名前で、<WebLogic ドメインのルート >¥bin ディレクトリに保存されています。

2 次の変数を設定または追加します。

- CF_SECURITY_JVM_OPTIONS
- MEM_ARGS

  JRockit を使用しない場合は、起動スクリプトに含まれる既存の MEM_ARGS 行に -Xms32m -Xmx512m -Xss64k -XX:MaxPermSize=128m を追加します。

  JRockit を使用する場合は、起動スクリプトに含まれる既存の MEM_ARGS 行に -Xms32m -Xmx512m -Xss64k を追加します。

- JAVA_OPTIONS

起動スクリプトに含まれる既存の JAVA_OPTIONS 行に CF_SECURITY_JVM_OPTIONS 変数を追加します。

たとえば、次のようになります。

```
@rem Security options are only required if enabling sandbox security
SET CF_SECURITY_JVM_OPTIONS="-Djava.security.manager"
@rem You must append %CF_SECURITY_JVM_OPTIONS% to the existing JAVA_OPTIONS value.
set JAVA_OPTIONS=-Dweblogic.security.SSL.trustedCAKeyStore=C:\WebLogic_HOME\server\lib\cacerts
%CF_SECURITY_JVM_OPTIONS% %CF_COM_JVM_OPTIONS%
@rem You must append the following to the existing MEM_ARGS value.
@rem -Xms32m -Xmx512m -Xss64k -XX:MaxPermSize=128m
```

3 起動スクリプトを保存し、WebLogic サーバーを再起動します。

UNIX で ColdFusion のセキュリティおよびグラフ作成機能を有効にするには

1 WebLogic ドメインの起動スクリプトを開きます。通常、このファイルは "startWebLogic.sh" という名前で、<WebLogic ドメインのルート >¥bin ディレクトリに保存されています。

2 次の変数を設定または追加します。

- CF_SECURITY_JVM_OPTIONS
- CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS
- MEM_ARGS

  JRockit を使用しない場合は、起動スクリプトに含まれる既存の MEM_ARGS 行に -Xms32m -Xmx512m -Xss64k -XX:MaxPermSize=128m を追加します。

  JRockit を使用する場合は、起動スクリプトに含まれる既存の MEM_ARGS 行に -Xms32m -Xmx512m -Xss64k を追加します。

- JAVA_OPTIONS

  起動スクリプトに含まれる既存の JAVA_OPTIONS 行に CF_SECURITY_JVM_OPTIONS 変数を追加します。

  たとえば、次のようになります。

```
# Security options are only required if enabling sandbox security
CF_SECURITY_JVM_OPTIONS="-Djava.security.manager"
CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS="-Djava.awt.headless=true"
# You must append ${CF_SECURITY_JVM_OPTIONS} and ${CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS}
# to the existing JAVA_OPTIONS value.
# JAVA_OPTIONS="default java options ${CF_SECURITY_JVM_OPTIONS} ${CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS}"
# You must append the following to the MEM_ARGS variable coded
# in the server startup file:
# "-Xmx512m -XX:MaxPermSize=128m"
```

3 起動スクリプトを保存し、WebLogic サーバーを再起動します。

JBoss Application Server への ColdFusion 10 のデプロイ

ColdFusion 10 では、以下の仕様に基づいて JBoss をサポートしています。

- JBoss 5.1、6.x、7.0、7.1
- JRE 1.5 または 1.6

ColdFusion 10 に対しては、次のような JBoss の使用状況を想定したテストは実施されていません。

1 JBoss で Tomcat 以外のサーブレットコンテナが使用されている

2 JBoss クラスタに ColdFusion がデプロイされている

注意：コンテキストルートとして / を指定して既にアプリケーションを使用している場合は、"cfusion-ear" ファイルのコンテキストルートとして / 以外のパスを使用します。ColdFusion をインストールするときに / を指定した場合は、cfusion-ear/META-INF/application.xml ファイルをテキストエディタで開き、context-root 要素を修正することによってコンテキストルートを変更できます。"cfusion-ear" ファイルをデプロイした後に ColdFusion ページへアクセスするには、http://< ホスト名 >:< ポート番号 >/< コンテキストルート >/< ページ名 >.cfm という形式の URL を指定します。

既にデプロイされている ColdFusion をアップデートする場合は、ColdFusion 10 をデプロイする前に、J2EE から旧バージョンの ColdFusion をアンデプロイします。

既存の JBoss 環境に ColdFusion をデプロイする場合は、デプロイを開始する前に EAR ファイルまたは WAR ファイルを手動で展開します。

このセクションでは、次の表記規則を使用しています。

JBOSS_HOME JBoss がインストールされているディレクトリ。例：C:¥jboss-as-7.1.1.Final（Windows の場合）または /usr/local/jboss-as-7.1.1.Final（UNIX の場合）

JBOSS_DEPLOY_DIR JBoss 内のアプリケーションデプロイディレクトリ。例：C:¥jboss-as-7.1.1.Final¥standalone¥deployments（Windows の場合）

CF_WEBAPP_ROOT ColdFusion がデプロイされているディレクトリ。例：C:¥jboss-as-7.1.1.Final¥standalone¥deployments¥cfusion.ear¥cfusion.war

TEMP_LOCATION cfusion.ear ファイルを展開するときに使用する一時ディレクトリ。

JBoss に ColdFusion をデプロイするには

1. JAVA_HOME を適切な JDK に設定します。
2. J2EE デプロイオプションを使用し、EAR ファイルを作成するオプション (デフォルト) を選択して、ColdFusion をインストールします。

   インストールプログラムにより、インストールディレクトリに "cfusion.ear" ファイルが作成されます。
3. "cfusion.ear" ファイルを TEMP_LOCATION¥cfusion.ear フォルダに展開します。cfusion.ear フォルダに、"cfusion.war" ファイル、"rds.war" ファイル、META-INF フォルダが作成されます。
4. cfusion.ear フォルダの下に cfusion および rds という名前のフォルダを作成し、"cfusion.war" ファイルと "rds.war" ファイルをそれぞれのフォルダに展開します。
5. 圧縮された状態の "cfusion.war" ファイルと "rds.war" ファイルを削除します。
6. cfusion と rds フォルダの名前をそれぞれ cfusion.war と rds.war に変更します。
7. 実行中の JBOSS を停止します。
8. TEMP_LOCATION¥cfusion.ear フォルダーを JBOSS_DEPLOY_DIR フォルダー内にコピーまたは移動します。JBoss 7 の場合は、展開した ear を JBOSS_HOME/standalone/deployments ディレクトリに配置して、空の cfusion.ear.dodeploy ファイル（EAR のディレクトリ名が cfusion.ear である場合）を作成します。この結果、ディレクトリ構造は次のようになります。

```
JBoss 5.1 or 6.x
      server
         default
            deploy
               cfusion.ear
                  cfusion.war
                  META-INF
                  rds.war
JBoss 7.x
    standalone
         deployments
            cfusion.ear
               cfusion.war
               META-INF
               rds.war
            cfusion.ear.dodeploy
```

9 **（Windows）**次の方法で、JBOSS_HOME¥bin¥run.bat ファイル（JBoss 5.1 および 6.x の場合）および JBOSS_HOME¥standalone.bat（JBoss 7.x の場合）を編集します。

a JAVA_OPTS に JVM (-Xmx512m) パラメータが存在しない場合は、このパラメータを追加します。

b JAVA_OPTS に -XX:MaxPermSize=128m を追加して PermanentGeneration ヒープのサイズを設定します。

このパラメータが存在しないと、JVM で java.lang.OutOfMemoryError エラーが発生する可能性があります。詳しくは、（http://wiki.jboss.org/wiki/Wiki.jsp?page=PermanentGeneration）を参照してください。

c WEB-INF/flex/jars にある jar がクラスパスに含まれていることを確認します。

d run.bat ファイルを保存します。

e JBOSS_HOME¥bin¥run.bat ファイルを実行してサーバーを起動します。

注意：Apache Derby データベースを使用する場合は、"run.bat" に JAVA_OPTS=%JAVA_OPTS% -Djboss.platform.mbeanserver を追加します。これを追加すると Apache Derby によって JMX 管理サーバーが起動されなくなります (JMX 管理サーバーは JBoss と競合する可能性があります)。

10 (Linux) 次の方法で JBOSS_HOME/bin/run.conf ファイルを編集します。

a JAVA_OPTS で、-Xmx128m. を -Xmx512m. に変更します。

b JAVA_OPTS に -XX:MaxPermSize=128m を追加します。

c run.conf ファイルを保存します。

d JBOSS_HOME/bin/run.sh ファイルを実行してサーバーを起動します。

オペレーティングシステム固有のバイナリを使用できるように ColdFusion を設定します。この手順は、オペレーティングシステム固有のバイナリを使用する次の機能をサポートするために必要です。

- C++ で記述された CFX タグ
- Unicode 対応の Microsoft Access ドライバ (Windows のみ)

次に示すオペレーティングシステムごとの手順に従い、必要なバイナリファイルを探すための検索パスを設定します。これらのファイルは、CF_WEBAPP_ROOT¥WEB-INF¥cfusion¥lib ディレクトリにあります。

注意：Apache Derby データベースを使用する場合は、"run.bat" に次の行を追加します。JAVA_OPTS="$JAVA_OPTS -Djboss.platform.mbeanserver"。これを追加すると Apache Derby によって JMX 管理サーバーが起動されなくなります (JMX 管理サーバーは JBoss と競合する可能性があります)。

注意：（JBoss 7.x のみ）JBoss でデプロイがタイムアウトして cfusion.ear がデプロイされない場合は、JBOSS_HOME¥standalone¥configuration¥standalone.xml ファイルで JBoss のデプロイのタイムアウトを変更できます。<subsystem xmlns="urn:jboss:domain:deployment-scanner:1.0"> <deployment-scanner scan-interval="5000" relative-to="jboss.server.base.dir" path="deployments" deployment-timeout="120",/> </subsystem>

注意：（JBoss 7.x のみ）JBoss 7.x に CF をデプロイすると、Web サービスは機能しなくなります。これを解決するには、JBOSS_HOME¥modules¥sun¥jdk¥main¥module.xml ファイルに <path name="javax/annotation/processing"/> を追加します。詳しくは、https://community.jboss.org/message/627008 を参照してください。

注意：ColdFusion を MAC で実行している場合、ドキュメントおよび PDF の機能で ClassNotFound for com.aqua.LookAndFeel エラーが発生することがあります。これを解決するには、JBOSS_HOME¥modules¥sun¥jdk¥main{color}module.xml ファイルに <path name="com/apple/laf"/> のエントリを追加します。

注意：JBOSS 7.x で OpenOffice が動作しない場合は、-Djava.ext.dirs=JBOSS_DEPLOY_DIR/cfusion.ear/cfusion.war/WEB-INF/cfusion/lib/oosdk/;<java-home>/lib/ext/（Unix ベースのマシンの場合は「:」を、Windows で ColdFusion を実行中の場合は「;」を使用）のフラグを使用して JBoss を起動します。また、JBOSS_HOME¥modules¥sun¥jdk¥main¥module.xml に、次のエントリを追加します。

Windows でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

1 JBoss Server が停止していることを確認します。

2 JBOSS_HOME¥bin¥run.bat に次の行を追加します。

```
set CF_LIB_PATH=JBOSS_DEPLOY_DIR\cfusion.ear\cfusion.war\WEB-INF\cfusion\lib
set PATH=%PATH%;%CF_LIB_PATH%
```

3 次のようにして、JBOSS_DEPLOY_DIR にある run.bat ファイルを編集します。

   a 次のテキストを探します。

```
@echo off
rem ---------------------------------------------
rem JBoss Bootstrap Script for Win32
rem ---------------------------------------------
```

4 このテキストの下に 3 行挿入してペーストします。

```
set CF_LIB_PATH=JBOSS_DEPLOY_DIR\cfusion.ear\cfusion.war\WEB-INF\cfusion\lib
set PATH=%PATH%;%CF_LIB_PATH%
```

5 ファイルを保存し、サーバーを起動します。

注意：アプリケーションサーバーで使用するバージョンに対応する tools.jar を、cfusion/lib ディレクトリにコピーする必要があります。

Linux でオペレーティングシステム固有のバイナリをサポートするための設定を行うには

1 JBoss Server が停止していることを確認します。

2 JBOSS_HOME/bin/run.sh に次の行を追加します。

```
export LD_LIBRARY_PATH=$LD_LIBRARY_PATH:CF_WEBAPP_ROOT/WEB-INF/cfusion/lib
```

3 ファイルを保存し、サーバーを起動します。

COM サポートを有効にするには (Windows のみ)

1 JBoss Server が停止していることを確認します。

2 JBOSS_HOME¥bin¥run.bat に次の行を追加します。

```
set CF_LIB_PATH=%CF_LIB_PATH%;CF_WEBAPP_ROOT\WEB-INF\cfusion\jintegra\bin;CF_WEBAPP_ROOT\WEB-
INF\cfusion\jintegra\bin\international
```

3 ファイルを保存し、サーバーを起動します。

Flex との通信を有効にするには

LiveCycle Data Services ES で RMI を使用するように ColdFusion を設定すると、ColdFusion はデフォルトでポート 1099 でリスンします。ただし、通常は ColdFusion より先に JBoss がこのポートでのリスニングを開始するため、例外が発生します。別の RMI ポートを使用するように ColdFusion を設定するには、ColdFusion Administrator の [Java と JVM] ページにある [JVM 引数] テキスト領域で次のように指定します。

-Dcoldfusion.rmiport=**nnnn**

nnn の部分は、使用されていないポート番号に置き換えてください。別の JVM サーバー上で実行されている LiveCycle Data Services ES サーバーから RMI を使用して ColdFusion に接続する場合は、同じ JVM 引数を使用して Flex サーバーを起動する必要があります。

RDS を無効にするには

1 ColdFusion を停止します。

2 JBOSS_DEPLOY_DIR¥cfusion.ear¥cfusion.war¥WEB-INF¥web.xml に含まれる次の行をコメント化します。

```
<!-- <servlet id="macromedia_servlet_8789">
    <servlet-name>RDSServlet</servlet-name>
    <display-name>RDS Servlet</display-name>
    <servlet-class>coldfusion.bootstrap.BootstrapServlet</servlet-class>
    <init-param id="InitParam_10340131106585 6789">
        <param-name>servlet.class</param-name>
        <param-value>coldfusion.rds.RdsFrontEndServlet</param-value>
    </init-param>
</servlet> -->
<!-- <servlet-mapping id="macromedia_mapping_9">
    <servlet-name>RDSServlet</servlet-name>
    <url-pattern>/CFIDE/main/ide.cfm</url-pattern>
</servlet-mapping> -->
```

3 ファイルを保存し、ColdFusion を起動します。

セキュリティ関連のエラーを回避するには

JBOSS の起動時にセキュリティ関連のエラー (Java およびセキュリティについて言及したエラー) が発生する場合は、"run.bat" ファイルを次のように編集します。

1 -Xmx512m パラメータが含まれる行に移動します。

2 -Dprogram.name=%PROGNAME% というテキストを -Dcoldfusion.disablejsafe=true %JAVA_OPTS% に変更します。

セキュリティエラーは、ColdFusion がより高度なセキュリティ標準を実現するために使用する追加の暗号化ソフトウェアを、JBoss の特定のバージョンで処理できないために発生します。EJB3 など、一部の機能を利用するには JDK 1.5 をインストールする必要があります。

ColdFusion のアンデプロイ

J2EE 設定の ColdFusion をアンデプロイするには、アプリケーションサーバー固有のアンデプロイツールと方法を使用します。

J2EE 設定の ColdFusion をアンデプロイするには

1 アプリケーションサーバーで使用されている JVM 引数 java.args および java.library.path から、ColdFusion 関連の指定をすべて削除します。

2 (Windows のみ) ODBC サポートをインストールした場合は、<ColdFusion Web アプリケーションのルート >¥WEB_INF¥cfusion¥db¥SequeLink Setup ディレクトリに移動し、"RemoveSequeLink.bat" ファイルを実行して、ODBC Windows サービスを削除します。

3 必要に応じて、ColdFusion Web アプリケーションのルートにある CFM ページをコピーして保存します。

4 アプリケーションサーバー固有のアンデプロイ機能を使用して ColdFusion Web アプリケーションをアンデプロイします。

   a WebLogic の場合は、WebLogic Administrator を開き、WebLogic Administration Console (http://hostname:portnumber/console) を開いて、[< ドメイン名 >]-[Deployments]-[Applications] に移動します。ColdFusion アプリケーションの右にあるごみ箱をクリックし、[Yes] をクリックします。WebLogic ドメインの起動スクリプトを開き、次のように ColdFusion 固有のエントリを削除します。

```
CF_WEB_INF
CF_SHARED_LIB_DIR (also remove CF_SHARED_LIB_DIR from PRE_PATH)
LD_LIBRARY_PATH (UNIX only, remove ${CF_SHARED_LIBS})
(Windows only) JINTEGRA_PATH (also remove JINTEGRA_PATH from PRE_PATH)
(Windows only) Remove jintegra.jar from PRE_CLASSPATH
CF_SECURITY_JVM_OPTIONS
CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS
Remove ColdFusion arguments from MEM_ARGS
Remove CF_SECURITY_JVM_OPTIONS and CF_GRAPHING_JVM_OPTIONS from JAVA_OPTIONS
```

5 必要に応じて、アプリケーションサーバーを再起動します。

第 4 章：統合テクノロジーのインストール

ColdFusion 10 には、Adobe およびサードパーティによって開発されたテクノロジーとの統合機能があります。これらのコンポーネントは ColdFusion 10 と同時にインストールできる場合もありますが、ColdFusion のインストールとは別にいくつかの作業を必要とする場合もあります。

Adobe およびサードパーティの統合テクノロジー

ColdFusion 10 には、Adobe およびサードパーティによって開発されたテクノロジーとの統合機能があります。

Dreamweaver 拡張機能のインストール

1 configuration/taglibraries/content/codehints フォルダとその内容のバックアップコピーを作成します。
2 "cf10dreamweaverextensions.mxp" を Adobe Web サイトからダウンロードするか、ColdFusion 10 の DVD からコピーします。
3 ColdFusion10_Tags_for_DW.mxp ファイルをダブルクリックします。

Dreamweaver には ColdFusion 10 の新規および更新済みのタグと関数に関するヒントやヘルプをすべて組み込むことができます。

Report Builder のインストール

ColdFusion のレポート作成機能は、サーバーサイドのランタイム処理と ColdFusion Report Builder で構成されます。サーバーサイドの処理は任意のプラットフォームで利用できますが、ColdFusion Report Builder は Windows のみで動作します。

ColdFusion Report Builder をインストールするには

1 次のいずれかの場所にある ColdFusion Report Builder のインストーラにアクセスします。
   - DVD - DVD ブラウザを使用して、ColdFusion レポート機能のオプションを選択します。
   - Adobe Web サイト - www.adobe.com/go/report_builder_jp/ にアクセスします。
2 ColdFusion_10_ReportBuilder_WWEJ.exe ファイルをダブルクリックします。
3 インストールに関する指示に従ってください。

Solr 検索サーバーのインストール

デフォルトの設定でインストーラを実行した場合、Solr 検索サーバーは ColdFusion と同じコンピュータにインストールされます。

注意：J2EE 設定で ColdFusion を複数回デプロイする場合は、ColdFusion Administrator で Solr ホームのパスを更新する必要があります。この作業を行うには、[データとサービス]-[Solr サーバー] に移動し、[Solr サーバーの設定] セクションの [Solr ホーム] でパスを更新します。

ColdFusion と異なるコンピュータに Solr 検索サーバーをインストールする場合は、Solr 検索サーバーを別途にインストールする必要があります。

Solr 検索サーバーを別途にインストールするには

1 次に示すプラットフォーム固有のインストーラを Adobe Web サイトからダウンロードするか、ColdFusion 10 DVD からコピーします。

プラットフォーム	インストーラ
Windows	ColdFusion_10_Jetty_Solr_win.exe
Linux	• ColdFusion_10_Jetty_Solr_linux.bin • ColdFusion_10_Jetty_Solr_linux64.bin
Solaris	ColdFusion_10_Solr_Jetty_solaris.bin
OSX	ColdFusion_10_Solr_Jetty_osx10.zip
AIX	ColdFusion_10_Solr_Jetty_aix.bin

2 コンピュータで現在実行中のアプリケーションをすべて閉じます。

3 適切なコマンドを使って、プラットフォーム固有のインストーラを実行します。

注意：UNIX システムではコンソールインストールだけを利用できます。

Solr 検索サーバーの使用

Solr を開始または停止するには、次の手順に使用します。

Windows 以外のプラットフォーム

- 次のコマンドを使用して Solr を開始します。

  sudo ./cfsolr start

- 次のコマンドを使用して Solr を停止します。

  sudo ./cfsolr stop

Windows プラットフォーム

- Microsoft 管理コンソールを使用して Solr サービス ColdFusion 10 Solr Service を開始または停止します。

Flash Remoting の有効化

Adobe Flash SWF ファイルから ColdFusion のページやコンポーネントを操作するには、ColdFusion 10 の Flash Remoting サービスを使用します。Flash Remoting を使用するアプリケーションを開発するには、Flash オーサリング環境内に Flash Remoting コンポーネントをインストールします。ColdFusion 10 の Flash Remoting サービスに接続してやり取りを行うアプリケーションを開発するには、Flash オーサリング環境または Adobe Flex が必要です。

デフォルトでは、Adobe Flash Remoting は ColdFusion 10 を介して Web サービスにアクセスできません。

Flash Remoting が ColdFusion 10 を介して Web サービスにアクセスできるようにするには

1 **cf_root**/cfusion/wwwroot/WEB-INF/gateway-config.xml ファイルをテキストエディターで開きます。

2 次の行を検索します。

```
<!--<adapter>coldfusion.flash.adapter.CFWSAdapter</adapter>-->
```

3 この行を次のように編集してコメントを削除します。

```
<adapter>coldfusion.flash.adapter.CFWSAdapter</adapter>
```

4 ファイルを保存します。

5 ColdFusion を再起動します。

Flash Remoting の詳細については、『Adobe® ColdFusion® 10 アプリケーションの開発』を参照してください。

Flash Remoting Update のインストール

Flash Remoting Update を利用すると、cfpop タグ、cfldap タグ、cfquery タグなどの ColdFusion の高度なデータ取得機能を使用して、Adobe® Flash™ Builder™ でリッチインターネットアプリケーションを作成できます。さらに、Flash Remoting Update を利用すれば、サーバーコールバックやカスタムユーザーインターフェイスなどの機能を搭載した Flash フォームや SWF アプリケーションを作成することも可能です。

Flash Remoting Update をインストールするには

1 ColdFusion 10 をインストールします。

2 ColdFusion サーバーで 8500 以外のポートを使用している場合は、次の手順を実行します。

   a <ColdFusion のインストールディレクトリ >¥wwwroot¥Web-INF¥flex¥services-config.xml ファイルを開きます。

   b 次のエンドポイント URL を変更して、使用するポートを指定します。

   ```
   <endpoint uri="http://localhost:8500/flex2gateway/" in flex-services.xml
   ```

   c ファイルを保存します。

   d ColdFusion サーバーを再起動します。

ColdFusion .NET Integration Services のインストール

ColdFusion から .NET アセンブリにアクセスするには、Adobe ColdFusion 10 .NET Integration Service をインストールします。.NET アセンブリは、ColdFusion と同じコンピュータにインストールすることもできますが、ColdFusion とは別のリモートコンピュータにインストールすることもできます。ColdFusion をインストールするコンピュータに Microsoft .NET Framework がインストールされていない場合は、ColdFusion インストーラの [.NET Integration Services] オプションが無効になります。

ColdFusion と ColdFusion .NET Integration Services の同時インストール

ColdFusion をインストールするコンピュータに .NET アセンブリが存在する場合は、ColdFusion のインストール時に [.NET Integration Services] オプションを選択します。このオプションを選択すると、ColdFusion 10 .NET Integration Services が ColdFusion と同時にインストールされます。ローカルの .NET アセンブリにアクセスできるのは、ColdFusion を Windows コンピュータ上で実行している場合のみです。他のオペレーティングシステムを使用する場合は、.NET アセンブリをリモートの Windows コンピュータにインストールする必要があります。

.NET Integration ソフトウェアは <ColdFusion のインストールディレクトリ >¥jnbridge ディレクトリにインストールされます。ColdFusion J2EE 設定をインストールする場合は、.NET Integration ソフトウェアのインストールディレクトリを指定できます。

インストーラを実行すると、Windows システムにインストールされている .NET Framework のバージョン (1.x または 2.0) が自動的に判別され、適切な .NET Integration ソフトウェアがインストールされます。32 ビットシステムと 64 ビットシステムの両方がサポートされています。.NET Framework をアップグレードする場合は、Adobe Coldfusion 10 .NET Integration Servies を再インストールする必要があります。.NET Framework 1.x 用に作成されたプロキシは .NET Framework 2.0 および .NET Framework 3.0 でも動作しますが、.NET Framework 2.0 用に作成されたプロキシは .NET Framework 1.x では動作しません。

ColdFusion .NET Service の別途インストール

.NET アセンブリがリモートコンピューター上に存在する場合は、.NET Service インストーラー（ColdFusion_10_DotNetIntegration_WWEJ.exe）を使用して Adobe Coldfusion 10 .NET Service をインストールします。また、ColdFusion のインストールが既に完了している場合も、ColdFusion_10_DotNetIntegration_WWEJ.exe を使用して ColdFusion .NET Service をインストールできます。

ColdFusion 10 .NET Service インストーラを使用してインストールするには

1. インストーラを開きます。
2. .NET Service ファイルをインストールするディレクトリを選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - **a** ColdFusion を実行しているコンピュータに .NET Service をインストールするには、[ColdFusion とともに .Net Integration Services をインストール] オプションを選択して、ColdFusion のルートディレクトリを指定します。
   - **b** .NET Service をリモートコンピュータにインストールするには、[.Net Integration Services をスタンドアローンとしてインストール] オプションを選択します。
4. [要約] を確認して [インストール] をクリックします。
5. ColdFusion を再起動します。

ColdFusion 10 .NET Service をアンインストールするには

1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プログラムの追加と削除] を選択します。
2. [Adobe Coldfusion 10 .NET Service] を選択します。
3. [Uninstall] をクリックします。

   また、別の方法として、Uninstall Adobe ColdFusion 10 .NET Integration Services.exe プログラムを実行して Adobe Coldfusion 10 .NET Service をアンインストールすることもできます。このアンインストールプログラムは、ColdFusion サーバー設定の場合は <ColdFusion のインストールディレクトリ >¥jnbridge¥uninstall ディレクトリにあります。また、J2EE 設定および ColdFusion なしで Integration ソフトウェアのみがインストールされているコンピューターの場合、このプログラムはデフォルトで C:¥ColdFusionDotNetService¥uninstall ディレクトリにあります。

OpenOffice の設定

ColdFusion 10 とともに OpenOffice を設定すると、cfdocument タグを使用して Word ドキュメントを PDF に変換したり、PowerPoint プレゼンテーションを PDF/HTML に変換できるようになります。

スタンドアローンのための OpenOffice の設定

http://download.openoffice.org/ から OpenOffice をダウンロードしてインストールします。Windows 以外のプラットフォームに ColdFusion 10 をインストールする場合は、インストーラの実行時に OpenOffice のインストール先となるディレクトリパスが提示されます。別のインストールパスを指定する場合は、次のようにディレクトリパスを指定できます。

- Macintosh プラットフォームの場合 :

  `/Applications/openoffice.org3`

- UNIX プラットフォームの場合 :

  UNIX の種類によって異なります。

  OpenOffice のインストール場所は、使用しているオペレーティングシステムの種類によって異なる場合があります。ほとんどの場合のインストール場所は /usr/lib/openoffice.org3

  または

  /usr/lib/ooo3.x です。

また、OpenOffice のインストールパスを ColdFusion Administrator で指定する場合は、次のようにします。

1 ColdFusion Administrator にログインします。

2 [サーバーの設定]-[ドキュメント] に移動して、OpenOffice のディレクトリを入力します。

J2EE サーバーを使用する場合の OpenOffice の設定

次の手順は、スタンドアローンの ColdFusion 10 には該当しません。

1 http://download.openoffice.org/ から OpenOffice をダウンロードしてインストールします。

2 他の J2EE サーバーの場合 :

- クラスパスに次のクラスと JAR ファイルを追加します。

```
[cfusionhome]/lib/oosdk/classes
[cfusionhome]/lib/oosdk/lib/juh.jar
[cfusionhome]/lib/oosdk/lib/jurt.jar
[cfusionhome]/lib/oosdk/lib/ridl.jar
[cfusionhome]/lib/oosdk/lib/unoil.jar
```

- Windows プラットフォームの場合は、ライブラリパス (java.library.path) に次のディレクトリを追加します。

```
[cfusionhome]/lib/oosdk/classes
```

[cfusionhome] の部分は cfusion ディレクトリのパスで置き換えてください。例えば、Jboss の場合は、/opt/jboss-7.1.GA/standalone/deployments/cfusion.ear/cfusion.war/WEB-INF/cfusion で置き換えます。

リモートでの OpenOffice の設定

1 コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
soffice -nologo -nodefault -norestore -nofirststartwizard -headless -
accept="socket,host=<ip>,port=8900;urp;StarOffice.ServiceManager"
```

host 属性で (設定する OpenOffice が存在するリモートマシンの) IP アドレスを指定します。

2 ColdFusion Administrator にログインします。

3 [サーバーの設定]-[ドキュメント] に移動して、ホストとポートの詳細を入力します。

ColdFusion 10 インストール後の OpenOffice の設定

ColdFusion 10 が既にシステムにインストールされている場合は、プラットフォームの種類に関係なく、次の手順に従って OpenOffice を設定します。

1 ColdFusion Administrator にログインします。

2 [サーバーの設定]-[ドキュメント] に移動して、OpenOffice のディレクトリを指定します。

3 ColdFusion サーバーを再起動します。

第 5 章：システムの設定

この章では、ColdFusion のサービスとプロセスを管理する方法、Web サーバーを手動で設定する方法、ユーザーアカウントを変更する方法、ColdFusion 用のデータベースを設定する方法について説明します。

注意：<ColdFusion のインストールディレクトリ > とは、サーバー設定のインストールディレクトリのことを指します。デフォルトでは、このディレクトリは C:¥ColdFusion10 (Windows の場合)、/opt/coldfusion10 (UNIX の場合)、または /Applications/ColdFusion10 (OSX の場合) になります。

設定タスクの概要

設定タスク	必要となる状況
Windows での ColdFusion サービスの管理および UNIX での ColdFusion プロセスの管理	ColdFusion Administrator でセキュリティ機能を有効または無効にしたり、Java や JVM の設定を変更したときに、それらの変更を有効にするために ColdFusion を停止して再起動する場合に必要です。このタスクは、ColdFusion のインストール後、いつでも実行できます。
Web サーバーの設定	本番サーバーに移行する場合や、ビルトイン Web サーバーでは要件を満たせなくなった場合に必要です。
CORBA サポートの有効化	ColdFusion から CORBA を呼び出す場合に必要です。このタスクは、ColdFusion をインストールした後、ColdFusion から CORBA を呼び出す前に実行できます。
Remote Development Services の無効化	セキュリティを確保するために、アプリケーションを本番環境に移行する場合は RDS を無効にしてください。
JSP 機能の無効化 (サーバー設定のみ)	ColdFusion エンタープライズ版をホスティング環境で実行している場合、JSP 処理を無効にしなければならない場合があります。
Windows での ColdFusion ユーザーアカウントの変更	ColdFusion を実行しているアカウントのアクセス権 (たとえば、リモートデータソース、他のアプリケーションページ、COM オブジェクトなどと通信するためのアクセス権) の設定が適切でなくなった場合に必要です。また、cfprint タグを使用してプリンタに出力する場合にも、このタスクを実行する必要があります。このタスクは、ColdFusion をインストールした後、アプリケーションをデプロイする前に実行できます。

その他の設定タスクについては、『ColdFusion 設定と管理』を参照してください。

Windows での ColdFusion サービスの管理

ColdFusion をインストールすると、選択した設定に応じて次のサービスが作成されます。

サービス	用途	設定
ColdFusion 10 アプリケーションサーバー	ColdFusion のメインサービスです。このサービスが実行されていないと、ColdFusion ページが処理されません。	サーバー
ColdFusion 10 ODBC Agent	ColdFusion 10 ODBC Server のデータソースを設定するためのサービスです。	すべて

サービス	用途	設定
ColdFusion 10 ODBC Server	Microsoft Access および ODBC Socket 用に DataDirect ドライバを使用する ODBC 接続の中間層サービスです。	すべて
ColdFusion 10 Jetty サービス	ColdFusion 10 検索タグをサポートするためのサービスです。このプロセスが実行されていない場合は、ColdFusion 10 検索タグを使用できません。	すべて
ColdFusion 10 .NET Service	ColdFusion を実行する Windows システム上のローカル .NET アセンブリにアクセスするためのサービスです。	すべて

注意： ColdFusion Administrator の [Java と JVM の設定] ページでセキュリティを有効または無効にした場合、または何らかのオプションを変更した場合は、変更を有効にするために、ColdFusion 10 を停止して再起動します。

ColdFusion サービスを開始または停止するには

1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択して、[サービス] ダイアログボックスを開きます。

   サービスが実行されている場合は、[状態] の列に " 開始 " と表示されます。サービスが実行されていない場合、サービスの状態は表示されません。

2 サービスを右クリックして [停止]、[開始]、または [再起動] を選択します。

   [サービス] ウィンドウの表示内容が更新されます。

ColdFusion 10 を自動または手動で起動するように設定するには

1 [コントロールパネル]-[サービス] ダイアログボックスを開きます

2 設定するサービスを右クリックして [プロパティ] を選択します。

3 [プロパティ] ダイアログボックスの [全般] タブで、[スタートアップの種類] フレームまたはポップアップメニューから、次のいずれかのオプションを選択し、[OK] をクリックします。

   - [自動] - コンピュータの起動時に、サービスを自動的に開始します。
   - [手動] - ユーザーが手動で開始するか、依存関係を持つ別のサービスによって開始される必要があります。

UNIX での ColdFusion プロセスの管理

ColdFusion をインストールすると、UNIX に coldfusion10 と呼ばれる 1 つのプロセスが作成されます。このプロセスが実行中かどうかを調べるには、次のコマンドを使用します。

```
ps -eaf | grep coldfusion10
```

このプロセスが実行中の場合は、次のような応答が返されます。

```
nobody 4528 1 10 12:44 pts/0 00:00:07 /opt/coldfusion10/bin/coldfusion10
```

インストール時に自動開始と自動停止のオプションを指定した場合、ColdFusion プロセスは、コンピュータを起動すると自動的に開始され、コンピュータをシャットダウンすると自動的に終了します。

ColdFusion Administrator の [Java と JVM の設定] ページで、セキュリティを有効または無効にした場合、または何らかのオプションを変更した場合は、変更を有効にするために、ColdFusion プロセスを停止して、再起動します。これは、サーバー設定のみに該当します。J2EE 設定の場合は、使用するアプリケーションサーバーに適した方法で Java 設定を更新し、サーバーを再起動します。

UNIX で ColdFusion プロセスを管理するには

1 root としてログインします (まだログインしていない場合)。

2 次のコマンドを入力します。

```
cd cf_root/bin
```

3 次の表の説明に従い、適切なコマンドを入力します。

タスク	コマンド
ColdFusion 10 の起動	./coldfusion start
ColdFusion 10 の停止	./coldfusion stop
ColdFusion 10 の再起動	./coldfusion restart
ColdFusion サーバーのステータスの表示	./coldfusion status

Mac OS X での ColdFusion プロセスの管理

ColdFusion をインストールすると、UNIX に cfusion と呼ばれる 1 つのプロセスが作成されます。このプロセスが実行中かどうかを調べるには、次のコマンドを使用します。

```
ps -eaf | grep coldfusion10
```

このプロセスが実行中の場合は、次のような応答が返されます。

```
nobody 4528 1 10 12:44 pts/0 00:00:07 /opt/coldfusion10/bin/coldfusion10
```

注意：ここで説明する内容は ColdFusion 10 サーバー設定のみに該当します。J2EE 設定では、アプリケーションサーバーを起動することによって ColdFusion 10 を起動および停止します。

インストール時に自動開始と自動停止のオプションを指定した場合、ColdFusion プロセスは、コンピュータを起動すると自動的に開始され、コンピュータをシャットダウンすると自動的に終了します。

ColdFusion Administrator の [Java と JVM の設定] ページで、セキュリティを有効または無効にした場合、または何らかのオプションを変更した場合は、変更を有効にするために、ColdFusion プロセスを停止して、再起動します。これは、サーバー設定のみに該当します。J2EE 設定の場合は、使用するアプリケーションサーバーに適した方法で Java 設定を更新し、サーバーを再起動します。

UNIX で ColdFusion プロセスを管理するには

1 root としてログインします (まだログインしていない場合)。

2 次のコマンドを入力します。

```
cd cf_root/bin
```

3 次の表の説明に従い、適切なコマンドを入力します。

タスク	コマンド
ColdFusion 10 の起動	./coldfusion start
ColdFusion 10 の停止	./coldfusion stop
ColdFusion 10 の再起動	./coldfusion restart
ColdFusion 10 のパフォーマンス情報の表示	./coldfusion status

Web サーバーの設定

Windows または UNIX で、インストール時に Web サーバーを自動的に設定しなかった場合、Web サーバーを変更する場合、または Web サーバーをクラスタとして設定する場合は、ColdFusion ページを提供する Web サーバーを設定します。

外部 Web サーバーとの接続を設定するには、Web サーバー設定ツールを使用します。このツールは GUI モードでもコマンドラインモードでも実行できます。Windows の場合は GUI モードについて、UNIX の場合はコマンドラインモードについて説明しますが、GUI 環境にアクセスできる場合は UNIX 上でも GUI モードを使用できます。

ColdFusion 10 では、使用開始初期にコマンドラインを簡単に使用できるよう、cf_root/cfusion/bin/connectors ディレクトリにバッチファイルとシェルスクリプトを用意しています。

Web サーバー設定ツールの詳細 (マルチホームや分散環境での運用など) については、『ColdFusion 設定と管理』を参照してください。

注意：設定が正しく行われたことを確認できない場合は、設定の手順を繰り返してください。問題が解消しない場合は、Adobe テクニカルサポートまでご連絡いただくか、設定が正しく行われなかった要素を手動で作成してください (たとえば、ここに記載されている説明に従って Apache httpd.conf ファイルに手動でエントリを追加するなど)。

Windows での Web サーバーの設定

Windows で Web サーバーを設定するには、次の作業を行います。

- Windows での IIS の設定
- Windows での Sun Java System Web Server の設定
- Windows 上の Apache Web サーバーの設定

Windows での IIS の設定

IIS を設定するには、GUI モードまたはコマンドラインモードで Web サーバー設定ツールを使用します。ここでは、GUI モードの使用方法について説明します。

（サーバー設定のみ）コマンドラインモードを使用する場合は cf_root¥cfusion¥bin¥connectors にあるバッチファイルを使用するか、または <ColdFusion_Home>¥runtime¥bin ディレクトリに移動します。

詳細については、『ColdFusion 設定と管理』の「Web サーバーの管理」の章を参照してください。

Windows で ColdFusion 用に IIS を設定するには

注意：IIS 7 または IIS 7.5 を設定しいている場合は、作業を進める前に、Windows の機能ダイアログボックス（スタート／コントロールパネル／プログラムと機能／ Windows の機能の有効化または無効化）で「**ISAPI 拡張機能**」（インターネットインフォメーションサービス／ Web 管理ツール／ World Wide Web サービス／アプリケーション開発機能）、「**ASP.NET**」、「**CGI**」の各オプションが選択されていることを確認してください。

1. [スタート]-[プログラム]-[Adobe]-[ColdFusion 10]-[Web サーバー設定ツール] を選択して、Web サーバー設定ツールを起動します。
2. 「追加」をクリックします。
3. サーバーポップアップメニューで、設定するホスト名とクラスタ名を入力します。

注意：サーバーまたはクラスタは、Web サーバーコンピュータ上に存在している必要はありません。

❖ [Web サーバープロパティ] 領域で IIS を選択し、Web サイトを指定します。IIS の場合は、通常 [すべて] を指定します。

IIS の設定を確認するには

1 次のフォルダーが作成されていることを確認します：**cf_root**/config/wsconfig/number。

2 connectionpooltimeout および reuseconnectioncount を設定するには、「詳細設定」タブをクリックします。バッファリングおよび詳細デバッギングを有効にするオプションも、同じページにあります。

IIS の設定

- フォルダー 1 を ***cfroot***¥config¥wsconfig に作成します。このフォルダーにはコネクタ関連のすべてのファイルが格納されます。
- 仮想ディレクトリ Jakarta を ***cfroot***¥config¥wsconfig（IIS 内）に作成します。
- エントリ tomcat を ISAPI FILTERS の下に追加します。この参照先を ***cfroot***¥config¥wsconfig¥1¥isapi_redirect.dll にします。
- エントリ tomcat を、ISAPI または CGI の制限の下で権限を allowed にして ***cfroot***¥config¥wsconfig¥1¥isapi_redirect.dll に追加します。これば IIS マネージャー内のサイト全体に適用されます。
- 次の isapi ハンドラーを追加します：cfcHandler、cfmHandler、cfmlHandler、cfrHandler および cfswfHandler。
- デバッグ用に、***cfroot***¥config¥wsconfig¥1¥ ディレクトリにある isapi_redirect.properties ファイルで、ログレベルを debug に設定します。
- Web サーバーバッファーを無効にするには、cfroot¥config¥wsconfig¥1¥isapi_redirect.properties ファイルで、is_buffer_enable を false に変更します。cfflush が IIS コネクタを介して機能するようにするには、Web サーバーバッファーを無効にします。アプリケーションで cfflush を使用しない場合は、パフォーマンスを向上させるため true に設定します。

Windows で ColdFusion を使用する場合の Sun Java System Web Server の設定

ここでは、Windows で ColdFusion を使用するために Sun Java Web Server 6.x または Sun Java System Web Server 7 を設定する方法と、各種設定の確認方法について説明します。これらの作業を行うには、Web サーバー設定ツールを GUI モードまたはコマンドラインモードで使用します。ここでは、GUI モードの使用方法について説明します。

注意：Windows では、32 bit の Sun ONE のみ使用できます。

注意：（サーバー設定のみ）コマンドラインモードを使用する場合は、cf_root/bin/connectors にあるバッチファイルを使用します。

詳細については、『ColdFusion 設定と管理』の「Web サーバーの管理」の章を参照してください。

1 [スタート]-[プログラム]-[Adobe]-[ColdFusion 10]-[Web サーバー設定ツール] を選択して、Web サーバー設定ツールを起動します。

2 「追加」をクリックします。

3 サーバーポップアップメニューで、設定するホスト名とクラスタ名を入力します。

   注意：サーバーまたはクラスタは、Web サーバーコンピュータ上に存在している必要はありません。

4 「Web サーバーのプロパティ」領域で、Sun Java Web Server（iPlanet）を選択し、obj.conf および magnus.conf ファイルが含まれるディレクトリへのパスを指定します。

設定の確認

1 次のフォルダーが作成されていることを確認します：**cf_root**/config/wsconfig/number。

2 connectionpooltimeout および reuseconnectioncount を設定するには、「詳細設定」タブをクリックします。詳細デバッギングを有効にするためのオプションも、このページにあります。

Sun ONE の設定

注意：64 bit の Windows および Linux では、32 bit の Sun ONE のみ使用できます。64 bit コンフィギュレーターを使用する際、32 bit の Sun ONE プロパティを指定します。

- フォルダー 1 を config¥wsconfig フォルダーに作成します。このフォルダーにはコネクタ関連のすべてのファイルが格納されます。
- Sun ONE の magnus.conf ファイルに次のエントリが追加されます。デバッグの場合は、ログレベルを debug に変更します。

```
Init fn="load-modules" shlib="C:/ColdFusion10/config/wsconfig/1/nsapi_redirect.dll"
funcs="jk_init,jk_service"
Init fn="jk_init" worker_file="C:/ColdFusion10/config/wsconfig/1/workers.properties" log_level="info"
log_file="C:/ColdFusion10/config/wsconfig/1/nsapi.log"
shm_file="C:/ColdFusion10/config/wsconfig/1/jk_shm"
```

- Sun ONE の obj.conf ファイルにすべての拡張子のエントリが追加されます。次に例を示します。

```
NameTrans fn="assign-name" from="/*.cfc/*" name="jknsapi"
NameTrans fn="assign-name" from="/*.cfc" name="jknsapi"
NameTrans fn="assign-name" from="/*.cfml" name="jknsapi"
<Object name="jknsapi">
Service fn="jk_service" method="*" worker="server1"
</Object>
```

注意：64 ビット Windows マシンにおける 64 ビットの Sun One および iPlanet Web サーバーはサポートされていません。

Windows 上の Apache Web サーバーの設定

Apache を設定するには、Web サーバー設定ツールを GUI モードまたはコマンドラインモードで使用します。ここでは、GUI モードの使用方法について説明します。

注意：UNIX プラットフォームで Apache コネクタを設定するには、APXS がインストールされている必要があります。

（サーバー設定のみ）コマンドラインモードを使用する場合は cf_root¥cfusion¥bin¥connectors にあるバッチファイルを使用します。

詳細については、『ColdFusion 設定と管理』の「Web サーバーの管理」の章を参照してください。

Windows で ColdFusion 用に Apache を設定するには

1. [スタート]-[プログラム]-[Adobe]-[ColdFusion 10]-[Web サーバー設定ツール] を選択して、Web サーバー設定ツールを起動します。
2. 「追加」をクリックします。
3. サーバーポップアップメニューで、設定するホスト名とクラスタ名を入力します。

   注意：サーバーまたはクラスタは、Web サーバーコンピュータ上に存在している必要はありません。
4. [Web サーバープロパティ] 領域で Apache を選択し、"httpd.conf" ファイルが置かれているディレクトリのパスを指定します。

Apache の設定を確認するには

❖ 次のいずれかのファイルが作成されたことを確認します。

- **cf_root**¥config¥wsconfig¥**number**

Apache の設定

注意：UNIX プラットフォームで Apache コネクタを設定するには、APXS がインストールされている必要があります。

注意：Apache は Mac 10.5 には設定できません。

- フォルダー 1 を ***cfroot***¥config¥wsconfig に作成します。このフォルダーにはコネクタ関連のすべてのファイルが格納されます。
- Apache_root_folder¥conf に mod_jk.conf ファイルを作成します。このファイルには、***cfroot***¥config¥wsconfig¥1 ディレクトリ内のすべてのファイルへのパスが含まれています。
- mod_jk.conf を含めるため、Apache の httpd.conf ファイルにエントリを追加します。
- 次のファイルは重要です。
  - uriworkermap.properties：どのコネクタを使用して Tomcat にリクエストを転送するかを決定する拡張子のマッピング。
  - mod_jk.conf：¥config¥wsconfig¥1 ディレクトリ内のすべてのファイルへのパスが含まれています。

    デバッグ用に、エントリ JKloglevel info を JKloglevel debug に変更します。

  注意：仮想ホストの設定では、次のエントリを各仮想ブロックに追加します：JkMountFile "***cfroot***¥config¥wsconfig¥1¥uriworkermap.properties:"。

各 ColdFusion インスタンスに対して Apache 仮想ホストを設定するには：

cfusion および server1 という 2 つのインスタンスがあるものとします。

1. wsconfig ツールを使用して、cfusion インスタンスに Apache Web サーバーを設定します。

   この手順では、コネクタ関連のファイルを cfroot¥config¥wsconfig¥1 フォルダーに作成します。また、mod_jk.conf を <Apacheroot>¥conf フォルダーに作成します。mod_jk.conf ファイルは httpd.conf に含まれます。

2. Apache 仮想ホストを設定します。
   1. cfroot¥config¥wsconfig¥1 の workers.properties で、server1 を workers.list に追加します。例えば、worker.list=cfusion,server1 のようにします。
   2. 次のコードブロックを追加します。

      ```
      worker.server1.type=ajp13
      worker.server1.host=localhost
      worker.server1.port=8014
      ```

      注意：ポートは server1 の AJP ポートで、cfroot¥server1¥runtime¥conf¥server.xml の server1.server.xml で確認できます。
   3. cfroot¥config¥wsconfig¥1 にある uriworkermap.properties の内容を、uriworkermap1.properties にコピーします。cfusion を server1 に置き換えます。
   4. 各仮想ホストで、次の行を追加します。例えば、VH1 は ColdFusion のインスタンスです。これは JkMountFile "cfroot¥config¥wsconfig¥1¥uriworkermap.properties" となっている必要があります。VH2 は server1 のインスタンスです。これは JkMountFile "cf_root¥config¥wsconfig¥1" となっている必要があります。

UNIX での Web サーバーの設定

UNIX で Web サーバーを設定するには、次のいずれかの作業を行います。

- UNIX での Apache Web サーバーの設定
- UNIX での Sun Java System Web Server 7 の設定

UNIX での Apache Web サーバーの設定

このセクションでは、UNIX 上で ColdFusion 用に Apache Web サーバーを設定し、設定内容を確認する方法について説明します。

UNIX 上で ColdFusion 用に Apache Web サーバーを設定するには

❖ 次のコマンドを、改行を入れずに 1 行として入力します。

```
./  wsconfig -ws Apache -dir <apache config directory> -v
```

注意：wsconfig コマンドとすべてのスイッチは 1 行で入力する必要があります。

コマンド入力の例を次に示します。

```
/opt/coldfusion10/cfusion/runtime/bin/wsconfig -ws Apache -dir /etc/httpd/conf -v
```

注意：固有の設定 (Redhat や Sun が提供する事前設定済みの Apache Web サーバーなど) の場合は、『ColdFusion 設定と管理』で説明されているように、-bin および -script パラメータを追加します。

Apache の設定を確認するには

1 次のいずれかのファイルが作成されたことを確認します。
   - **cf_root**/config/wsconfig/**number**

2 connectionpooltimeout および reuseconnectioncount を設定するには、「詳細設定」タブをクリックします。詳細デバッギングを有効にするためのオプションも、このページにあります。

Apache の設定

注意：UNIX プラットフォームで Apache コネクタを設定するには、APXS がインストールされている必要があります。

注意：Apache は Mac 10.5 には設定できません。

- フォルダー 1 を ***cfroot***¥config¥wsconfig に作成します。このフォルダーにはコネクタ関連のすべてのファイルが格納されます。
- Apache_root_folder¥conf に mod_jk.conf ファイルを作成します。このファイルには、***cfroot***¥config¥wsconfig¥1 ディレクトリ内のすべてのファイルへのパスが含まれています。
- mod_jk.conf を含めるため、Apache の httpd.conf ファイルにエントリを追加します。
- 次のファイルは重要です。
  - uriworkermap.properties：どのコネクタを使用して Tomcat にリクエストを転送するかを決定する拡張子のマッピング。
  - mod_jk.conf：¥config¥wsconfig¥1 ディレクトリ内のすべてのファイルへのパスが含まれています。

    デバッグ用に、エントリ JKloglevel info を JKloglevel debug に変更します。

  注意：仮想ホストの設定では、次のエントリを各仮想ブロックに追加します：JkMountFile "***cfroot***¥config¥wsconfig¥1¥uriworkermap.properties:"。

UNIX での Sun Java System Web Server 7 の設定

ここでは、UNIX で ColdFusion を使用するために Sun Java Web Server（6.x）または Sun Java System Web Server（7.0）を設定する方法と、各種設定の確認方法について説明します。

1 **cfroot**/cfusion/runtime/bin にある wsconfig ツールを起動します。

2 [追加] をクリックし、[Sun Web Server 7] を選択します。

3 Sun Web Server のルート (作成されたインスタンス) から conf dir を選択します。

4 [ColdFusion アプリケーションの Web サーバーの設定] オプションを選択し、[追加] をクリックします。

注意：コマンドラインで次のコマンドを使用して Sun Java Web Server を設定します。./wsconfig -ws iplanet -dir ***config_folder_of_web_server_instance***

UNIX での Sun Java Web Server 6.0 または Sun Java System Web Server 7 の設定削除

1 <cf_home>/runtime/bin ディレクトリに移動します。

2 次のコマンドを実行します。./wsconfig -ws SunJWS -dir <Directory path> -remove

CORBA サポートの有効化

ColdFusion を Borland VisiBroker と統合すると、サードパーティの Object Request Broker (ORB) がサポートされます。ただし、Borland 社から Common Object Request Broker Architecture (CORBA) ソフトウェアを入手する必要があります。

必要なシステム条件

ColdFusion から CORBA を呼び出すには、コンピュータに次のコンポーネントがすべてインストールされている必要があります。

- Borland VisiBroker 4.5.1 for Java
- VisiBroker Interface Repository 用の JRE (Java Runtime Environment) 1.4
- ColdFusion 10 用の JRE 1.6 以降

CORBA 接続用の VisiBroker のインストール

1 CORBA サーバーサイドに VisiBroker をインストールします。

   詳細については、Borland VisiBroker のマニュアルを参照してください。

2 次の手順に従って、"vbjorb.jar" ファイルを ColdFusion クラスパスに追加します。

   a ColdFusion Administrator で、[サーバーの設定]-[Java と JVM] を選択します。J2EE 設定の場合は、使用するサーバーに応じた方法で "vbjorb.jar" ファイルを J2EE アプリケーションクラスパスに追加します。

   b [Java と JVM の設定] ページで、[クラスパス] テキストボックスに "vbjorb.jar" ファイルのパス (たとえば C:¥Inprise¥vbroker¥lib¥vbjorb.jar) を入力します。[JVM 引数] テキストボックスに --Xbootclasspath/a:"C:/Inprise/vbroker/lib/vbjorb.jar" を追加します。

   VisiBroker の関連ファイルをすべてインストールする必要はありません。前述の JAR ファイルが ColdFusion を実行するコンピュータ上にインストールされていれば問題ありません。

   c 「変更の送信」をクリックします。

3 次のようにして、ColdFusion で VisiBroker コネクタを設定します。

   a ColdFusion Administrator の [拡張機能]-[CORBA コネクタ] を選択します。

   b [CORBA コネクタ] ページで、[CORBA コネクタの登録] をクリックします。

   c [CORBA コネクタ] ページで、コネクタの情報を入力します。

   正しく設定されたコネクタの例を次に示します。

フィールド	値
ORB 名	visibroker

フィールド	値
ORB クラス名	coldfusion.runtime.corba.VisibrokerConnector
クラスパス	(なし)
ORB プロパティファイル	C:¥ColdFusion10¥lib¥vbjorb.properties

ORB プロパティファイルにより、VisiBroker 用の正しい ORB 設定を含む Java プロパティファイルが参照されます。

"vbjorb.properties" ファイルの内容は次のとおりです。

```
org.omg.CORBA.ORBClass=com.inprise.vbroker.orb.ORB
org.omg.CORBA.ORBSingletonClass=com.inprise.vbroker.orb.ORB
SVCnameroot=namingroot
```

d ページの編集作業が終了したら、[送信] をクリックします。

[CORBA コネクタ] ページが表示されます。

e 新規 CORBA コネクタの左側にあるラジオボタンを選択し、[ORB コネクタの選択] をクリックします。

これで、新規コネクタがデフォルトコネクタとして設定されます。

4 次の手順に従って、CORBA のサーバーサイドを準備します。

a VisiBroker osagent サービスまたはプロセスがまだ起動していない場合は、次のコマンドを入力して開始します。

```
osagent
```

注意：別のサブネットワーク上の osagent に接続する必要がある場合は、"vbjorb.properties" ファイルに次の各行を追加します。

```
vbroker.agent.addr=<IP address of machine running OSAGENT>
vbroker.agent.port=<port>
```

b Interface Repository を開始し、使用する予定の IDL ファイルを読み込みます。この操作は、次の例に示すように irep コマンドを入力して行います。

```
irep myir MyIDLFile.idl
```

c (オプション) Naming Service を使用する場合は、次のコマンド例に従ってコマンドを入力します。

```
nameserv namingroot
```

注意：Naming Service の名前 (< ネーミングルート >) は、"vbjorb.properties" ファイルで指定されている SVCnameroot の値と一致する必要があります。

d CORBA サーバー上で VisiBroker を開始します。

詳細については、Borland VisiBroker のマニュアルを参照してください。

5 ColdFusion を再起動すると、この変更内容が有効になります。

詳細については、51 ページの「Windows での ColdFusion サービスの管理」および 52 ページの「UNIX での ColdFusion プロセスの管理」を参照してください。

これで ColdFusion から CORBA を呼び出せるようになります。CORBA オブジェクトを ColdFusion に統合する方法の詳細については、『ColdFusion アプリケーションの開発』を参照してください。

Remote Development Services の無効化

アプリケーションの開発に Adobe Dreamweaver、Macromedia HomeSite、Adobe Flash Builder、または Eclipse を使用する場合は、HTTP を使用して ColdFusion のリモートサーバーにアクセスできます。ただし、統合開発環境 (IDE) で RDS を設定し、ColdFusion で RDS を有効にする必要があります。RDS を使用すると、IDE のユーザーは安全にリモートファイルやデータソースにアクセスし、そのデータソースから SQL クエリーを構築し、CFML コードをデバッグすることができます。

注意：ColdFusion Report Builder は、クエリービルダーおよびチャート作成サポートに RDS を使用します。

ただし、セキュリティ上の理由から、本番サーバー上では RDS を無効にすることをお勧めします。RDS を無効にするには、RDSServlet のマッピングを無効します。

RDSServlet のマッピングを無効にするには

1 "web.xml" ファイルのバックアップコピーを作成します。

   このファイルは、Windows では **cf_root**¥cfusion¥wwwroot¥WEB-INF ディレクトリに、UNIX では **cf_root**/cfusion/wwwroot/WEB-INF ディレクトリにあります。

2 オリジナルの "web.xml" ファイルをテキストエディタで開きます。

3 次の例に示すように、RDSServlet マッピングをコメント化します。

```
<!--
<servlet id="coldfusion_servlet_8789">
    <servlet-name>RDSServlet</servlet-name>
<   display-name>RDS Servlet</display-name>
    <servlet-class>coldfusion.bootstrap.BootstrapServlet</servlet-class>
        <init-param id="InitParam_103401311065856789">
            <param-name>servlet.class</param-name>
            <param-value>coldfusion.rds.RdsFrontEndServlet</param-value>
        </init-param>
</servlet>
-->
```

4 ファイルを保存します。

5 ColdFusion を再起動します。

   これで ColdFusion サーバーの RDS が無効化されます。

詳細については、51 ページの「Windows での ColdFusion サービスの管理」または 52 ページの「UNIX での ColdFusion プロセスの管理」を参照してください。

JSP 機能の無効化 (サーバー設定のみ)

ColdFusion エンタープライズ版は、ColdFusion を実行する J2EE アプリケーションサーバーを通じて、JSP (JavaServer Pages) テクノロジーをサポートします。JSP コードは、ColdFusion セキュリティフレームワークの領域外で実行されるため、ColdFusion サンドボックスセキュリティによって保護されません。このため通常は、1 つのサーバーを複数のカスタマが共有する、共有のホスティング環境に JSP をデプロイすることはしません。

JSP 機能を無効にするには

1 **cf_root**/cfusion/runtime/conf/web.xml をテキストエディターで開きます。

2 JspLicenseServlet の servlet-mapping エントリを見つけます。

3 次の例に示すように、このエントリをコメント化します。

```
<!--
<servlet-mapping>
<servlet-name>jsp</servlet-name>
<url-pattern>*.jsp</url-pattern>
-->
```

4 ファイルを保存して閉じます。

5 ColdFusion を再起動します。

Windows での ColdFusion ユーザーアカウントの変更

デフォルトでは、ColdFusion サービスは、数多くの権限を与えられたシステムアカウントを使用して実行されます。セキュリティを強化するために、これらのサービスを実行するための Windows ユーザーアカウントを新規に作成し、Web アプリケーションの実行に必要な権限 (たとえば、Web ルートにあるフォルダへのアクセス権) のみを付与することをお勧めします。

ColdFusion ユーザーアカウントを変更するには

1 [サービス] コントロールパネルを開きます(たとえば、[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択します)。

2 [ColdFusion 10 Application Server] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。

[(ローカルコンピュータ) ColdFusion 10 Application Server のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3 [ログオン] タブの [アカウント] を選択し、アカウント情報を入力します。

4 「OK」をクリックします。

5 [サービス] コントロールパネルで、[ColdFusion 10 Application Server] を右クリックし、[再起動] を選択します。

注意：Windows の管理者アカウントの名前は変更しないでください。セキュリティポリシーとプロファイルに問題が発生します。

第 6 章：トラブルシューティング

インストール時に発生する一般的な問題は、次の手順に従うことで解決できる場合があります。

一般的なインストール問題

TEMP または TMP 環境変数にスペースが含まれる (Windows のみ)

問題 :
Windows の TMP または TEMP 環境変数のパスにスペースが含まれていると、インストーラはアーカイブからの抽出を実行した後に停止します。

解決策 :
TEMP または TMP 環境変数を変更して、スペースを含まないようにします。

ダウンロードに失敗する

問題 :
InstallAnywhere により、他のインストール場所の選択を促すメッセージが表示されます。しかしどの場所を選択しても、インストールに失敗します。

解決策 :
完全なインストールファイルをダウンロードしたことを確認します。ダウンロードしていない場合には、再度ファイルのダウンロードを実行します。

問題 :
ColdFusion インストールファイルを Apple Macintosh にダウンロードしようとすると、完了する前にダウンロードが停止しますが、ブラウザにはダウンロードが完了したことが示されます。

解決策 :
Safari を使用している場合、次の手順を実行します。

1. ダウンロードを開始します。
2. ダウンロードウィンドウを開きます (Option + Command + L)。
3. ダウンロードが中断されているように見えたら、[停止 (X)] ボタンをクリックします。
4. [再開] ボタンをクリックします。

   Safari により、中断場所からダウンロードが続行されます。
5. 必要に応じて手順 3 と 4 を繰り返します。

サーバーエラー

問題 :
サーバー自体から、またはリモートで CFM ページにアクセスしようとしている場合に、次のエラーが発生します。

```
Server Error
The server encountered an internal error and was unable to complete your request.
```

解決策 :
Web サーバー設定ツールを実行して、Web サーバーコネクタの設定を無効にしてから、54 ページの「Web サーバーの設定」の説明に従って再設定します。

ColdFusion サーバーを起動できない

問題 :
Windows SP2 ファイアウォールのインストール後、ColdFusion サービスを開始できません。

解決策 :
Windows XP Service Pack 2 をインストールすると、デフォルトで Windows ファイアウォールが有効になります。この状態では ColdFusion が正常に機能しません。詳細については、テクニカルノート www.adobe.com/jp/support/coldfusion/ts/documents/windowsspxp2.htm を参照してください。

Flash フォームの表示エラー

問題 :
Flash フォームが設定された ColdFusion ページを表示しようとすると、次のエラーが発生します。

```
2 Errors found.
Error /CFIDE/gettingstarted/community/webroot/index.cfm:-1
macromedia.css.LocatorParser
Error /CFIDE/gettingstarted/community/webroot/inde.mxml:381
The class 'mx.rpc.RemoteClassRelayResponder' could not be loaded.
```

解決策 :
Apache や IIS などの外部 Web サーバーを使用している場合、[スタート]-[プログラム]-「Adobe]-[ColdFusion 10]-[Web サーバー設定ツール] の順に選択して Web サーバー設定ツールを実行します。また、ポート 8500 を使用するビルトインサーバーも試してみてください。詳細については、54 ページの「Web サーバーの設定」を参照してください。

ColdFusion ページを表示するとダウンロードウィンドウが現れる

問題 :
以前のバージョンの ColdFusion では、IIS を使用してファイル拡張子 .cfm を ICSF.dll にマッピングしていましたが、ColdFusion ではファイル拡張子 .cfm をどの .dll ファイルにもマッピングしていませんでした。したがって、IIS 5.0 を使用している環境で ColdFusion ページを表示すると、ページが実行される代わりに、ダウンロードウィンドウが表示されます。

解決策 :
[スタート]-[プログラム]-[Adobe]-[ColdFusion 10]-[Web サーバー設定ツール] を選択して、Web サーバー設定ツールを起動します。詳細については、54 ページの「Web サーバーの設定」を参照してください。

ColdFusion Administrator が暗号化されたページとして表示される

問題 :
ColdFusion のインストール後に Windows XP SP2 をインストールした場合、ColdFusion Administrator を起動すると、Administrator が暗号化されたページとして表示されます。

解決策 :
Windows XP SP2 アップデートにより、ColdFusion の IIS マッピングが無効になる場合があります。バッチスクリプトを実行して IIS コネクタをアンインストールした後、再インストールを実行します。詳細については、54 ページの「Web サーバーの設定」を参照してください。

ColdFusion が起動しない

問題 :
McAfee Privacy Service をシステムにインストールすると、ColdFusion が起動しなくなります。

解決策 :
McAfee Privacy Service を削除します。

データソースに関する問題

Microsoft Access データソースを追加できない

問題 :
Microsoft Access データソースを追加しようとすると、エラーが発生します。

解決策 :
ODBC サービスをインストールして起動するか、Unicode ドライバで Microsoft Access を使用します。

ODBC サービスが正しくインストールされない

問題 :
ODBC サービスが正しくインストールされません。

解決策 :
次のコードを使用して、既存の ODBC サービスを削除します。

```
<cfscript>
        writeOutput("Installing ODBC Services...<br>");
        returnValue = myObj.installODBCservice();
        writeOutput("ODBC Services installed");
    </cfscript>
```

その後、次のコードを使用して ODBC サービスを再インストールします。

```
<cfscript>
    writeOutput("Removing ODBC Services...<br>");
    returnValue = myObj.removeODBCservice();
    writeOutput("ODBC Services removed");
</cfscript>
```

CLOB フィールドが存在していると Oracle 10 データベースに対して INSERT または UPDATE を実行できない

問題 :
Oracle では、列のサイズが 4 KB までに制限されています。列のサイズが 4 KB のサイズ制限を超えている場合、cfinsert タグや cfupdate タグを使用しようとすると、次のエラーが発生します。

```
ORA-01704: string literal too long
```

解決策 :
このエラーを回避するには、cfquery タグまたは cfqueryparam タグを使用します。

移行に関する問題

データソースが認識されない

問題 :
以前のバージョンの ColdFusion から ColdFusion 10 に移行すると、アプリケーションがデータソースを認識しません。

解決策 :
データソースの再定義を行います。

Dreamweaver で CFC が認識されない

問題 :
以前のバージョンの ColdFusion から ColdFusion 10 に移行すると、CFC が Dreamweaver の [コンポーネント] パネルに表示されません。

解決策 :
マッピングを確認し、必要に応じてマッピングを更新します。

インストールに失敗する

問題 :
/tmp パーティションが noexec にマウントされている UNIX および Linux システムに ColdFusion をインストールしようとすると、インストールに失敗します。

解決策 :
これはインストールが、インストーラランタイムの解凍および実行に /tmp ディレクトリを使用しようとすることが原因で発生します。この問題を回避するには、IATEMPDIR 環境変数を、システム上で実行アクセス許可を持つディレクトリに設定してから、インストーラを実行する必要があります。

問題 :
ColdFusion をインストールしようとすると、インストールが失敗し、次のエラーが発生します。

```
"java.lang.OutOfMemoryError Invocation of this Java Application has caused an InvocationTargetException.
This application will now exit. (LAX)"
```

解決策 :
インストーラによる JRE の抽出先となるディレクトリ (たとえば /tmp) をクリーンアップする必要があります。

J2EE 設定に関する問題

問題 :
Red Hat Enterprise Linux 4 に ColdFusion をインストールすると、インストールスクリプトで C++ 互換パックに関する警告が正しくレポートされません。

解決策 :
C++ ベースのカスタム CFX タグを使用する予定がある場合は、システムに compat-libstdc++ パッケージと glibc パッケージがインストールされているかどうかを検索し、必要に応じてインストールする必要があります。すべてのパッケージを検索して grep コマンドをフィルタとして使用するか、正確なパッケージ名を指定して検索を行ってください。たとえば、rpm -qa | grep compat-libstdc++ というコマンドを入力すると、すべてのパッケージが検索され、文字列 compat-libstdc++ がフィルタとして使用されます。このコマンドを実行すると、compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3 と compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2 のように、2 つの結果が返される場合があります。

インストール後に発生する問題

CLOB およびデータの破損

問題 :
ColdFusion の日本語版、および NLS_Characterset JA16SJJS が設定された Oracle 8/9 を使用しているときに、CLOB の破損とデータの破損が発生します。

解決策 :
JDBC の URL で codepageoverride=MS932 を設定します。

アンインストールに関する問題

COM が無効になる

問題 :
以前のバージョンの ColdFusion がシステムにインストールされている場合、ColdFusion をアンインストールすると、COM が無効になります。

解決策 :
以前のバージョンの ColdFusion に関連付けられた "typeviewer.dll" ファイルを再登録します。